



A vertical ruler scale from 0 to 20 cm. The numbers are color-coded: 0-2 are red, 3-7 are green, 8-10 are blue, 11-15 are orange, 16-19 are purple, and 20 is red. The word "JAPAN" is printed vertically in red at the bottom, and "Tajima" is printed vertically in red at the top.

文化四
秋

へ5

説書通俗志卷下

夜

八重垣花檻垣後ホウヘニ
キハニハニエキハニカガル
八文字ハニカ付字ハ三カム

。八臘名而ハミンヌ石清ホホ
祭ハ林之、有祭トイハムニ

社一社川社ホの内一ノ祠ホコラ

神祇の文面。川社裏ニ

八之廻号トクお吉符字ニ
や林産而麻歌ハアヅヒヤ

家ニ三カ去宿寓ホニ二カ

。度取口てやうとみる一やうと見ハ五

宿只ニ旅ニ一旅ニ一宿ニ

宿ニ而ニ早あホのやとうべ七

寓

只一旅一鳥方星本のあら

ありちニ一宿皆お去るもく西レ

山

字まこ。山ニ月と弦よりれ

。山位居而哉媚非述。山陥ニ

。山は木非極又々する。山陥ト許非旅

。山科モ安モ非山。山之非居もよう

。山風山下亂セラ。山里榮のア不付

。山笑山燒まき。山のミ山の湯

山瓶非神人報ニ。山晚非人。

山鳥山晴鳥。けふ皆山鶯。

山伏尺姫ニ人傍之卧至ニ。非夜

山うう寝ゆ。若かえ曉の空。

山彷非人。山を報ニけふ非山。

山下山本ホニ陰ニ勺ニ山際ハ不延

山の草。瀧共ニ非津水。

山の端。嶺峯。峯。山尾上を山木

七勺去。落山。ハオノ形。落。巴。

仙人。山ニ方。非山人。山人。各。あ。

山吹。去。山吹。不露。山吹衣。又。

萩。一。極。柳。哉。延。竹。ニ。る。去。

萩。根。萩。葉。お。お。く。て。き。し。

窮風。食。入。お。不。延。村。字。二。勺。

柳。一。志。柳。一。吳。名。一。之。皆。去。之。

夏。一。秋。一。冬。ニ。へ。け。内。と。四。こ。れ。

落。ハ。夏。ニ。落。ハ。林。ニ。枯。ハ。れ。

柳。縛。去。ニ。も。之。付。字。二。勺。

凡。又。茅。河。木。茅。川。木。茅。吴。名。

魚。栗。夏。ニ。や。る。打。よ。う。や。み。ま。え。

下りやる器やみ林へ
知一年の矢一之彌不經付字三矢

矢若矢立簇ホオクテミ

溝脇役猿松弓矢翻ホシ

矢 強月ニカニ年の矢カラニカニ

○溝脇の神祇ノ矢オカラニカニ

逃一之逃梅逃ホジホの内ニ

焼ニニたく西炮鳴ホセタ

畠山芝聖ホ焼公雲ニ多焼ハ難

休足ニ一目心ニ一鳥ニ一字足ホニ

やさシム一休ニセキヤスヒ花又至

瘦病ニ一患ニ一せきニ極めニ

病やすシニ一やむニ患ニ一生れニ

極めニ一せきおきニ和石夜万比

寡一人傍ニ立ニヤセリ寫又立

○寡和名夜元女。鶴和名夜元平

塞世ニ旅ニやつす一

済人ニ一せれニ兩病ニ

やうてセキもニ一やうくニ一せき

やうぬセキもニ一やうニハお

やお合照ニ一銀のやハニカニ

銀のやがえ字ニナリハトモハレ

やうニセキもニ一銀セキもニ

一名の猪ニ止字もニ

やうニ一やさニ止字もニ

大和一倭テ又止破四

わ一やうじ一▲あハニ

通
下

万

三

三
木

迷^ミ 橋^{ハシ} 四^シ ま^マ 七^セ り ▲ 每^{メイ} 四^シ
四^シ 木^キ 三^{サン} ▲ ま^マ 四^シ
四^シ え^エ お^オ 面^{ミツギ} ▲ 紗^サ 二^ニ
守^{ムツル} 一^{イチ} ま^マ 一^{イチ} (モ) ▲ 避^{ヒヤキ} 二^ニ
文^{ムツラ} 夫^ヲ 人^{ヒト} 逸^{アハハ} (ア) ▲ □ 二^ニ
子^{ムツコ} 祖^{ムツコ} 面^{ミツギ} ▲ □ 二^ニ
學^{ムツル} 驕^{ムツル} 亂^{ムツル} ▲ □ 二^ニ
字^{ムツル} 二^ニ ▲ □ 二^ニ
計^{ムツル} 二^ニ ▲ □ 二^ニ
生^{ムツル} 二^ニ 今^{ムツル} 不^{ムツル} 始^{ムツル} 二^ニ
あ^{ムツル} き^{ムツル} 二^ニ 去^{ムツル} け^{ムツル} 不^{ムツル}
。あくのむり^{ムツル} と^{ムツル} び^{ムツル} あくのう^{ムツル}
け^{ムツル} 今^{ムツル} 不^{ムツル} あ^{ムツル} た^{ムツル}

誠実ニ云々。二句奉言不體
四句を猶かのぞむハ西ノ付字三句
丸ノ後^{ハトヲ}三句付字三句
四句後^{ハトヲ}三句付字三句
又付字三句
交付字三句
二字を之の付へ四句付字三句
字を之の付へ四句付字三句
又付字三句
字を之の付へ四句付字三句
あひあひひまわひどホニ
まタるもハ万ま不體付字三句
ニ付字三句付字三句
八付字三句一付字三句
八付字三句一付字三句
八付字三句一付字三句
工えすくもニ付字三句稀四句

通下

再本

アラタニイアリセキシテ
アラタニイアリセキシテ

云々の烟へ氣傷へ多めに病氣を
創憲本の序 = 二
和名介布判

眉 メニ
目 メモト
え 胸 ムシ
思ひの烟 忘へふやめえ
木竹柳草水ゑ木の烟篠ススキの火

襄 けの後 けはけ喫ホのけ之一
けきど又きタ食ケ軽食ケのけ不挂

厨子君大丈婦女郎けれお去まで
乞里の宿意へる面去をアソシテ
アツクス

検校
彦改便の藏名ハアヌニノサ

花のく一茶のむすめをもつて

毛 毛の一名の毛一毛ニ一默ニ一之れ
毛桃毛蘋タチ毛虫ホヘ面ニ毛ウラ多夏
ケモノ

消へ
四へけつへる 消へ字去之
不知の内ニカミタクタクヨウリサル

氣ケル
八ハシけケ三ミツ
一イチ生シヨウ三ミツ但タニ
險ケン山サン一イチ朝タケシ一イチ
別ベツ四シヨウ

深字去ニミニテ右の跡ニテ

布

卷の序ハ既てありぬと云同上

○除キ登非極。○除因非水。

更^{フタル}表^{シテ}ノ如夜が立文と云々

和一月ニ一旁ニ一之は表^{シテ}立文と云々

年枕木の文ハ非夜^ノにてハニ而吉

吹^シ字^ミ嘯^{ウツクシ}如吹^シ有^リる風の字

ニウ去^{スル}笛吹^ホハ風の字不疑

雪^{フジキ}冬ニ降^{スル}也^ハ風体^ハ雪ニ七^セ

ものあざき^ハ小せある^リと風体^ハ

風炉^{フウロ}一風呂^{スル}共^ニ風の字ニ二^ニ

風呂安^{スル}又^ハ風呂^{スル}風呂^{スル}

○風呂在^{スル}者^ミ湯女^{ナガ}オ^ク

文^{フミ}一名の文^一核^ニ一^ノ学^ヒの字^ミニ

字^ミの字^ミハ書^{フミ}の字^ミと^ハタと^ハビ

音^ミ喝^ハて面^ミ狀^ミを張^{スル}面^ミ

茎^{スル}又^ハ文^モ多^シの江^ホニ^カ

その江^ホ水^{スル}茎^{スル}の江^ホニ^セウ付^{スル}字^ミ二^カ

文^モ文^モ核^ホニ^カ豪^モ一^ノ共^ニ志^ム也^オ

○学^ミの字^ミの文^ハ非^ス豪^ハ有^リ不^ス苦

文^モ豪^モ當^スの地^ニ立^ス志^ム也^オ

古^モ付^ス付^ス合^ハと^ハ立^ス也^オも獲^ケ

立^ス當^ス付^ス付^ス合^ハと^ハ立^ス也^オも無^ア之

心付^ス付^ス付^ス合^ハと^ハ立^ス也^オと^ハ歌^ス人

み^ハ詠^スび^ハ志^ムの地^ニ立^ス也^オれ^ハふや近代

立^ス本^モ有^リう^ハ立^ス又^ハ折^ス又^ハ口^ス

又^ハ月^ニ非^ス文^モ又^ハす^ス又^ハ西^ニ西^ニ

星^タ不^ト蠹^セ木^の況^{不可^レ用^ス}圖^シ之^ヲ

每^ハ一^日子^モ燒^ス木^の内^ニ一^水茎^{スル}一^ノ

一切^ハ木^の二^カ晝^ニ経^ス也^オ因^ハお

キ^モ文^モ字^ミ多^シの江^ホ茎^{スル}又^ハ方^ニ

。その辺の水草の辺へと水草の辺へ

○余試予姑元兄○予觀之○予亦

食一冬之衣朝之衣之夜食食非夜

方亨原廉虫也才疏一以新之
衾弓矢衾亦又至之○古辛衾衣之

フス
一 看取之難之非れ夜衾
ト
シ

蒲生
タチバナ
タチバナノシキ
タチバナノシキ
タチバナノシキ

腰うくわ赤へ面へ。匂伏衣衣之

筆一呪の筆一翁尺八の軸

恨疏不姪
和名布江

草月二十九日一九二九年正月廿五日
世芦公占木と草と、ハ居不哉延

禁
禁ニシテ名ふもニの内ニ本ニ不疑

山本七勺
祐也の月之く

富士山東の川悲山。かの雪(二)

船の管=三弓付字三弓比丘尼お志

。お此身はあゆの身に川あら
ツチヌタル

小説二三事一ノ部ノ御用文書之

。一氣の水 非常の一氣の水の筋へゆく

水石の如きを以て之をせん
かと云ふ事は可い事だ

名未
未ちん
啼も熟之
和名不久口不

生遂せはまめにけむれ

付字みらべ三の去 多の生ハ不姫

故 一暮ニ至ニ此ニ一鬼魂ホニ

除セニ一ノ皆ホヘ付字ミラベ名布加

友壺難ニ友衣ニ衣傷ニ友泥非水

節 竹茅木本条材木の内ノテニニ

鰐ノ脚又ニ高志の音面ニ付字ミラ

古 ハニイカヘニク苦ニ不經又タニギリ

古ニセタ古ニ面ニ付字ミラ

古ニ居古ニ一室居ニ一猿ニ一居モ内ニ

古ニ非述 猿も裏ハルニせぬニ

猿と居るとハ表ニ不苦 里ニ三句

八皇居の古ニハ名而ニ同名不の家教ニガ

呂の故皇居の家ニセタ猿の教ニ古

猿の古ニ居亦ハ猿の教ホガハニ古

居古ニ居更ニ何の教キモニク

○居と猿との古ニハ家ニ不姫 ③

八居の古ニハ何の家教キモ不經哉面

○月の故教の故ハ何の古ニムモ不姫

歴 年月ニニコヘラヌニク皆ホヘ

テセ山伏セツルハニク古布ツル不姫

免 キモキモキモキモキモキモキモキモ

○キモキモキモキモキモキモキモキモキモ

服 服モク人ニニクニ一粒ニミク

シ茶本のキモキモキモキモキモキモキモ

○被モ起るホヘラル北被モラウト不姫

○伏ルニカ。山伏ニ面ニ。傍附高ニ

ニハニカ。二人非入。ニカ高ニ

史婦 高ニ人傳ニカ。めことどより

抵 字高ニウテ純ナラ清ナリ心高ニ

曲

只一恋ニシホウ國ナリモ
○只ひうりあみせうり殺うりホミシ

奉勅一答恋一ノ振ニ舞ニ

ハニ うわ口ドリルベお去
ニエ 神服ホトムクモニ

塞滿道四ノ家と隣一面▲君烟一様ニ

四ノ殺ニク裏▲懐一山ニ
入れホニ守ニエ▲衰一筋一

一瘻条ホニエ▲聰クテニエ
左 うきよる四ノ張ニ

不破の冥山丸ニ▲食ニエ

一ふせおニエ▲巾ニエ

解蓋左 すきうニ三ノ間ニ
不破の冥山丸ニ▲食ニエ

縁一ふせおニエ▲巾ニエ

古

河ニ云の糸一糸の糸のた一ノ打

○河ニ糸不羅云の糸ニ糸ニ
河の林非極河の酒非水共諸事ニ

○河のむ當河正花もまた極ね越経

△云の糸のた一糸は若経のたへれ
風雅のたへれ(ウ)元ニ面ニ

後云云河すよてよ讀お二方業ニ

傳云一つてお云二つお云ニ方

疎ニ二疎ニ云事ホ不羅

故云一奚ニ二ち云本ホ不羅

試云二之公ニ有あるむとて見え方
心字志ニ情志試使ニ

神意心探ホニ二方拘魂ホトドリニ
心の月熟ニ又夏ニ西の月をね非夜

○心のむま之正花ニ極ね越経

○ 亂世の如き
アラタクコ
サシヲクコ
ノハレ

又
三
之

卷之二

心の松不變と云ひの松^{モニ}云^ム共^ニ非植^ム
。ひの猿^ミのる共^ニ犯^ル猿^ミと云^ム非生^ム
心の友人優^シ月も熟^シ空^ミとさせ^ハ非人^ム
。ひの寄^シ迷^ハ懐^シ非夜^ム空^ミ行^ハ非述^ム
心の水^ア蒸^シ非水^ム空^ミ行^ハ非火^ム
蒸^シ湯^ミ空^ミあはせ^セゆ^シ祥^シと透^ル
空^ミの字^アわ^タか^ハ猫^モのま^ハ空^ミ又^ム
ちや^シき月^アを^シうお^シて^シ非^シ空^ミ
空^ミの^シ二^シか^シと^シき三^シを^シ
心^シと^シ残^スべ^シ一^シか^シ不^シ於^シ
○まの平^シか^シて^シ空^ミと^シまん林^シが
空^ミ身^シ離^シ空^ミ非^シ柱^ム空^ミ柱^ム離^シば
季^シと^シ桂^シ越^シ。空^ミの世^シニ^シヨ

あヌ 宇志志ヲトヒジキ 有蜀ニシキ 二ウ 恵名古惠
の名のあゞとく 七白虫歎ハアツ ありて云
东风コガラシ まえこちまえまこち夏ハタチ うて二
風カキ まえ風ハタチ 非柱ハタチ 木キ 柱ハタチ 二ウ
凡ミタカ 柱ハタチ 木キ 柱ハタチ 木キ 凡ミタカ
。本柱ホウキ の森モリ 名メイ 之ノ 駿スル 之ノ 非凡ハタチ 又アシテ
木キ 字シテ 木キ 木キ 下シテ 写スル 夏ハタチ 非夜ハタチ
こトきト一方柱ハタチ オリムハニタウ
木キ の森モリ 一柱ハタチ 衣猿イケモノ 天狗タケミカツチ 木キ 一
共ヨリ 犬イヌ 乞ハシマリ 家ヤマハシマリ 廉ヤハシマリ 有
虫ムカシ 木キ 虫ムカシ 木キ 秋ハタチ 木キ 木キ みミ 有
又アシテ 木キ 素ハタチ 也ハタチ 有ハタチ 木キ 之ノ 有ハタチ
。木キ の人ヒト のあハタチ 时ハタチ 之ノ 有ハタチ 木キ 非律ハタチ
木キ のそ衣ハタチ 本ホン のそ猿ハタチ せシテ 有
木キ の天狗タケミカツチ 木キ 本ホン 之ノ 有ハタチ 木キ 非律ハタチ

たのうち云名のまゝおこなふ本の裏面に

○本のこの沖名前へ親へ非極繁ニ方

本^{コタツ}山^{ミヤマ}走^{ミハシ}打^{ミハシ}木^{ミキ}二方^{ミカツ}魂^{ミコト}お

梢^{コズニ}只^ミ一む^ミ一名の本^ミ一へ極^ミお

本^ミ未^ミニ二句枝不姫^ミ和名古次惠

○梢の秋九月の異名之極^ミ或^ミ嫁嫁

菓^{ココリ}秋^ミむ^ミ夏^ミ飾^ミ金^ミ衣^ミ菓多^ミ又^ミ

み葱^{ミナキ}去^ミも^ミ夏^ミ椰^{ナギ}ハ親^ミ

菓^{ココリ}一親^ミ極^ミむ^ミ夏^ミ交^ミハ秋^ミ

○菓^{ミナキ}延^{ミロコ}極^ミ非^ミ若^ミ姿^ミとす^ミの表^ミう^ミ

△菓^{ミナキ}極^ミ一季^ミ一非^ミ極^ミ一^ミ皆^ミお

○菓^{ミナキ}居^{ミホシ}極^ミ居^{ミホシ}極^ミ菓^{ミナキ}猿^{ミヤクニ}非^ミ極^ミ

○菓^{ミナキ}被^{ミハシ}衣^ミ述^ミ懐^ミ衣^ミ被^{ミハシ}衣^ミ非^ミ極^ミ

蒋^{コモ}一水草^ミ之^ミ○薦^{コモ}一藉^{クサム}序^{ヒロコ}入^ミ

五^ハ八^ミカ^ハ五^ハ李^{スモ}杏^{カラモ}被^{ナダメ}極^ミ野^ミ

△五^ハ舍^ミ日^ミ庭^ミ老^ミ次^ミも^ミ菓^ミ巴丘^ミ雲^ミ夏^ミ

△五^ハ舍^ミ照^ミ陽^ミ舍^ミ淑^ミ景^ミ舍^ミ荒^ミ夷^ミ舍^ミ

△五^ハ舍^ミ芳^ミ華^ミ舍^ミ就^ミ芳^ミ舍^ミ以上^ミ報^ミ又^ミ非^ミ居^ミ

○菓^{ミナキ}秋^ミ之^ミ禁^ミ秘^ミ妙^ミ云^ミ不限^ミ菓^{ミナキ}

色々^ミノ秋^ミ花^ミ被^{ミハシ}裁^{ミハシ}之^ミ云^ミ非^ミ居^ミ

九^ハ八^ミカ^ハ九^ミ度^ミ非^ミ居^ミ名^ミ一^ミ面^ミ

可^ミ有^ミ二^ミ有^ミ之^ミ不^ミ經^ミ玄^ミ經^ミ來^ミ月^ミ

鈎^{ミス}差^ミ居^ミ而^ミ之^ミ差^ミ打^{ミハシ}ス 小^ミ不^ミ居^ミ

衣^ミ也^ミ去^ミ之^ミ衣^ミ之^ミきぬ^ミ三^ミ方^ミ付^ミ字^ミ云^ミ

○菓^{ミナキ}衣^ミ也^ミ去^ミ之^ミ衣^ミ之^ミ之^ミ也^ミ去^ミ之^ミ

衣^ミ也^ミ秋^ミ。衣^ミ也^ミ名^ミ不^ミ居^ミ也^ミ去^ミ之^ミ非^ミ足^ミ

足^ミ也^ミ一^ミ降^ミ也^ミ一^ミ傍^ミ一^ミ素^ミ林^ミ一^ミ

終 吕一ひげこそをご虫終の也コロ一

冬音

カタミ カゴ

越ルハハ 越路ニト付字ニタ

○越乃非名然とも若レホアリト姫ヒ

流フアマヌ准ス之ミ越のあは名而

トシトシ一去年一之共ヒまくヒ音又至

今ヒ一今年一之共ヒまくヒ音又至

ことトコ一今ヒ不經ヒトコゼヒ年ヒ面

氷 吕一薄冰ヒヤスヒ一鑿冰タカルヒ一月の氷ヒ

氷柱ヒラマツお玄ヒツク小せねヒツク面ヒツク和名古保利

氷の換元見ヒホリ氷面ヒツクひヒお表冰ヒツクお

氷室夏ヒツク氷面ヒツクひヒお氷室ヒツク夏ヒツク

氷ヒ月薄洞窟ヒツク高ヒツク雪ヒツクおホヒツク非水

々ヒツク氷面ヒツク多足ヒツクの氷ヒ月ヒあ

氷砂糖ヒツク豆ヒツク小石ヒツク儀ヒツク木ヒツク難ヒツク一

氷面ヒツクひヒ白ヒツク小角ヒツク豆ヒツク難ヒツク一

月の氷ヒ小せねヒツク秋ヒツク月ヒツク氷ヒ多足ヒツク非水

。いてヒツクるヒツクこヒツクと附ヒツクおヒツク氷ヒツク七ヒツクこ

氷ヒ多足ヒツク薄ヒツク房ヒツク多足ヒツク消ヒツクひヒけ

足ヒツクひヒけヒツク氣ヒツク薄ヒツク冰ヒツクけヒツクまヒツク氷

氷ヒとヒツクくヒツクもヒツクいヒツクきヒツクお氷ヒツク多足ヒツク

比ヒツク字ヒツクもヒツク勇ヒツクハヒツク時ヒツクおヒツク二ヒツクち

日ヒツク來ヒツク頃ヒツク近ヒツク若ヒツクホヒツク二ヒツク△來ヒツク四ヒツク

古御ヒツク新ヒツク准ヒツク准ヒツクドヒツクてヒツクてヒツクあヒツク秋ヒツク又ヒツク云

古御ヒツク新ヒツク准ヒツク准ヒツクドヒツクてヒツクてヒツクあヒツク新ヒツク

曆臺ヒツク多足ヒツク四ヒツク和名古与美

市ヒツク七ヒツク多足ヒツク四ヒツクかヒツク二ヒツク三ヒツク

。ゆヒツク一居ヒツク多足ヒツクかヒツク二ヒツク三ヒツクお

ござヒツクとヒツク云ヒツク古ヒツク多足ヒツク七ヒツク多足ヒツクお

ありヒツクまヒツクあヒツク多足ヒツク案ヒツクハヒツク二ヒツク二ヒツク

詞ヒツクハヒツク多足ヒツク多足ヒツク字ヒツクけヒツクてヒツク可ヒツク兒

通下サ
字去之ヲと二句ヲ不付ヲ ① ②
再机

卷下

十一

再
未

○小名親之 皮ルウ柏ウハ秋之 横吉之
子 二人絶之者又二子持水子
赤子亨子ホニの也 親子く後述體之
○孤子息孫素子アモリ子也之 也之

嬰児ハお去ル子祝子家ノ子ホニ
セ取メニセタ植わメニテ巾子
布^{ヌコ}子底子ホの付字不曉^フ字不曉
生敷^{ヌコ}の子^クテニ^ク承^キム子ヒヨト^ア
○植わメニ^ク看^{タケハコ}又ニ^ク仰^{タケハコ}メニ^ク方
子^{ハム}と胎^ヒ立^{タチ}齋^{シヤウ}と非^ハ立^{タチ}子^ハ抱^{ハシマ}具^{ツヅキ}立^{タチ}
母^{ヌケ} 非人^ハ居^{タリ} 畏^ハ家^ハ立^{タチ}
肥^{ヨコ} 腹^{ヨコ} 人^ニ生^レ一^ホニ^一地^ニ一^ホ比^{ハシマ}一^ホ挂^{ハシマ}
一^ホ無^ハ事^ハ無^ハ掛^{ハシマ}一^ホセ^{ハシマ}一^ホ
猶^ハ有^ハス。猶^ハえ柳^{ハシマ}立^{タチ}

琴三絃
琵琶三絃
絃行本画

特牛 牛 扌 智名古度比

秋のじみのぬしぬまと云ふ
ノリキミミヨル
八月附根莖貢上云々 や略

○伝法十五級六十足十貫
四月六足六三日
里役貢役六足六月四日
役役及役六足十七日

武侯三牧三平足曰立也亦足昔尤五
上序乙亥方上二之大也

井ノトウグウケイタチルセコ
ひかわをそぞく。牧内小池牧_{九月}貞之云
○引_クトハ_ル遠東_{シテ}上郷_{カミ}江波_{カマ}遊_ス之_ヲ

は ▲ 是 ▲ 宴 暮字を之ける事ニ有

け居居てくらひおの附ハ非居
火達 火セセラ炉ホア ▲ こぢるニ

暮ニ み暮 双ヒ面 ▲ 惊 ニ
乞食 迷懐之僕傷 ▲ 驅 ニ

被冒女 人傷之非急 ▲ 好 ニ
穢 一せれニ氣ニ ▲ 淩 ニ

糞 一糞ホニガニニ ▲ 轉 ニ
一挫 捻キヨニニ ▲ 旗 ニ

谷ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

輿ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

瘞ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

焦ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

溢ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

懲ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

迄ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

拂ニ 二ミトウルニニ ▲ 旗 ニ
一休 無ニニニ ▲ 旗 ニ

一ヌクテニ ▲ 披クテ四之
廻ニ 二傍ニ

事字を言不姫 ▲ 摘クテ八之

衣

江ニ 二名義ニ付字三者江口水色ニ

枝ニ 二名義本木ニ承本片うて不若
川町のえと面之付字三者和名衣太

はふ著ニ 一蒲萄ニ 皆秋ニ
えひはねえと付和名衣比加良

衣紋ニ 一紺絹ニ えひはねえと付和名衣比
夷ニ 一人便ニ 朴の草比次不疊

有考外玉の名ニ付えど一名ニ非人
有考外玉の名ニ付えど一名ニ非人

縁 無のえん一えか一えきれ一

宿 路 地縁あわ縁起縁起あ面

縁組えの縁地えんと不本意

縁側 エシカタ
ヤタケラ 行縁まひ居の縁 不睦

縁能 エシナラ
ヤタケラ 斧鞆おおく矢面弓弓セウ

縁蚕 エビラ
ヤタケラ 又を蔓え 和名昔衣比良

柄 エギ 一穂又さ ▲釋多非人

撰 エク つてハシ ▲故ハシ

天

天四之あめと訓て面をも訓て七句

⑦ 定 ツヅ 二句付字三句天狗便集不成

○天五 天子ホノ偏の介へ天目目不姫
胡庭 ツウオ 独身我然あ白翁太白に面へ
絶頂絶度變元是コトナリ あさあした不姫
は絶頂コトナリ 三句 ⑦ は絶頂コトナリ

寺 二名不のち二吟おぐく丈丈之音面く
○音のる号ニニ陸号高号一これく
△号ニ名のむだり高号アマサ おぐく音ハ
○号後号高号ホ名不越略アマサ え
人の名不越略アマサ おぐく音のむ田のや
△号ホ塔室のた七句又尺麥の坊
音アマサ おも七句も古の羽庭アマサ 非居
△號アマサ 一とよく一まく音弦アマサ お林こ
於號風車アマサハ も二の門折取アマサ おがき
△一音二人傷アマサ おぞい音女
そお書成アマサ 面之ヲツ ひ二句
△ハ之大すアマサル 売アマサ 織アマサ 七句
△糸紗生絹極アマサ のみ又くもうぬ手
皆セウアマサル お握アマサ と不付段漫アマサ 二句

秋の田植わ哉姫　林のまみ木のまみち
天　あめ　あま　四　音　四　訓
音との方、處　そくと川てへざる
穴ニ二勺　虛言ホハ不姫　付字ニ二勺
。あめあまそく　天主天井天日不姫
天のスミ①天の墨戸　共　神祇
天の川　名ふく水きく諱之非夜
天アメニ七勺　天テニ三勺　天ヲニ二勺
穴ニ不姫　七タニ不姫　銀河　おも
但　穴とおも　天アメ太面穴ニ二勺
銀河　天象も無も心も法ても非水
秋　七夕　天アメ三勺　穴ニ二勺
ぬ　字もえ　水の呪ニヤとぬい付も姫
水の呪　夜うし鶴アサニアヌ　五　二勺
ぬ累てぬきてぬ鶴　ホヘ非夜

袖不経 付字ニ有モト志摩之
○も洗水 非水ミシルオモセウ
トムトムトフタヌガラテヌベ
云言 内也ホニルヌアリモ
テ オ合と姫 て薦ニルム
トのちのて薦ハム一ニ穴てヒ
テ小とく オ合と姫モゾヒテノ不經
而ハテ オ合と姫
潤布 ホニ作セタ非衣 亨ミ人傳
摺 テカル モニニ有車ニ面 一歎 非人
袂 ティ ダイ までて四く 一照りにて四く
秋 宇ル季ルカク去 付字ニ有
。秋の宇 秋ニ吾家ノ日本ニ非袂
秋月 二 秋の月ニ之袂うち衣非衣

暁 暁 烈五 あさひ 二句 桜雪 不姫
非夜時 暁の字タの字ニ二句
の國ハおもへ時より其の字ニ二句
は不姫名すれど水边にて是山より非水
は不姫赤三句不セタ是立ち砂二句
有 宅主 あくね 三句あくねニ二句
墓塔不姫 五壬の日五月忌詞
○毛根ニス。毛根居不越姫
署 暁 一秋之他季一ノ月の月
號とす也しく入ルハ非夜
月次ノ月ニ二句在ニ二句四ニ三句
翌不付灯のありあけいかれ去
暁ニ取らんを暁又一尺友人非夜
暁ノ落ハ非夜 暁終時ニ二句
相立ニけとよみのめ出ニ二句

暁 一朝もくの終時ニ二句 暁ニ西
終朝 暁タ是不の終ホニ二句
終タニ けとニあとセタ終の承ニ二句
は終面今終セタ終度終解不姫
終 八之けとあたホセタ付字ニ三句
ホセタニタヌ是ニ二句

終の月一けこの月一終時の月ニ二
○終附日すびの是とて重の月ニ
○終朝 一日終時ニ不の不姫

終余のち終度終解終度共ニ三句
○終モ終くをきあくとひゑ
槿 一章牛花一秋之終時ニ二句

終の是と仕立すの字す二句
一毛人あくね一ノ月宋ニ二句
ぬくひわ 四月ハ秋之面く

通鑑

一
六

卷之三

一夏ニアリ一秋ニ暖ニ二冬
ニニアリニ内ニ非夏ニ而
ニニヤクタニセウ 燐ホウスリガ
一夏ニセウニ陰刃刀ニニ

龍之病之汗拭莫之
氣之風亦二而凡之也見其

高麗の事は、歴史の難い
山川の事は、考證と然る風神が、

ア
ア 四二九 あま、面こハカニセル
みやめう 汗のあまうみせぬのあがち
ミテレヒミツヒタクヒキ時ニホニニモ
アモニコガニアメニ面ニ余ハアヒテ
ルカニコアリアマヒタ余ハヒテ
小セヤのニコガニシのあまうとト
アメアマウカナホニセリノ者ニニ

これやうやうおのづかは不姫
ね月本のも川あほのよひふせわ
波後きとーるゑあさくふせわ
雨中雨天おの竟四しゆめあはれわ
さあわる事のあさりあ七八余、二九
裏一々一ゆる消し度之裏ゆる
蹠あまこがきのれふ名づく
○裏地の縁巻模あのヤマニコガ
○あまこや裏雪あハ二九の宿ゆく
泡水一茶一弓一雪一くぢこ
ほ雪ハ消ルも冬くふ名づく和由岐
○傍海鷗非山水一和名づく波知
东一名ふ越姫へ東盡ノソイ

ひゞ
ニ面之東逝水
ノ御事
アラミ
四阿
居所
あつまニ面ひゞ不曉

赤 四之朱丹紅漆 非漆二句

赤きふニ江木面之付字ニもとさる

喜四之綠二句 喜と踏喜之

喜あ難之付字ニもと名阿乎

○青丹吉 喜ニ吉ニ句入

倭 字玄く 倭弓山記

○脚茅を難之極め居正哉經

倭茅と許ハ非若茅の號也

麻 桂ね一布ニ麻の交一麻が二

前ハ去く苅ハ夏之麻が非桂秋之

麻の毛流スハ朴紙之桂め之夏之

麻代湯搗麻夏之寒之難之付字三句

芦 蘆之水乞之桂ね之淡萩ニ西

桂ね季とくてニ非桂あくてニ

芦枯ルハ冬も桂寄る旁麻

尼虫冷ホ孫ヘハ木く芦の毛極秋之

茂ルハ夏之茅角附ハ去く付字三句

芦の毛角芦火芦鷦鷯熟之非桂水

芦鷦鷯毛之水乞之非桂

芦蒲一毛うぶ又一水乞之夏之

かざんも育ト引シ枕も寒シ水乞之

桂ねく夏之湯刀木夏之非桂水

葵榮ニその葵夏之朴紙之

法うく法榮多ニモキヨウケ多

ひう立名之夏之 和名阿布比

藍一染毛一毛ハ秋之苅ハ夏之

二重刈ハ秋之 和名阿井

栗 莖ノ夏之桂と刈と枕シ和名阿八

○栗は水辺之處里原ハ非水

棟アラチ

花信風アリスた四者シヨウの候マサニと候マサニも連訛ルンシウ其ヒへ

船ブ一夏アキ之候マサニ一夏アキ之代マサニの季ハセニ之候マサニ安由

押船アラシブえりへ小船コブ若船ワカブ汲船ハラブゑりへ

宿船アラシブ落船アラシブ秋アキ之千船チブ燒船ヤラブ新ハタチへ

一名の網アメ一水辺ミズエ之せは越煙アマガス一非水アメニ

普アマガスせは越煙アマガス之代衣網アメニ非生アメニ

編アメニ三弓付字アメニ三弓之裏アメニの網アメニ非也アメニ

細代アメニ一水辺ミズエ之せは越煙アマガス一網アメニ

代アメニ細代アメニの底アメニ不アメニ越煙アマガス非夜アメニ

細代守アメニ人偏アメニ之りハ非アメニ人アメニおハ林アメニ

○屏風車アメニ木アメニ今アメニ之新アメニ非生水アメニ

○油士アメニ人偏アメニ之水辺ミズエ里アメニの油士アメニ田アメニ名アメニ

○あま小舟アメニハ松河アメニうれと水辺ミズエ非人アメニ

尼アメニ一人偏アメニ人偏アメニ之アメニ一付字アメニ弓

主アメニ二ぬアメニニ共アメニ人偏アメニ之アメニて魚アメニ

すアメニ一の付字アメニより不暖アメニ

矣アメニニ二弓アメニ又アメニ不暖アメニ宿食アメニ又アメニ

總角アメニ一矣アメニ三弓アメニ人の了アメニ走アメニ又アメニ

先アメニハ魚アメニ不暖アメニ。網アメニよアメニさアメニくアメニし

脚アメニ加アメニ脚アメニ。脚アメニよアメニ水アメニ之アメニ及アメニ之

垢アメニ一世アメニの垢アメニ一水衣アメニ水アメニ之アメニ二の垢アメニ

论アメニ字アメニ左アメニ之アメニの數アメニ之アメニ沿アメニ之アメニ之

足アメニニ二弓アメニ一矣アメニ二。付字アメニ弓

せぬの足アメニ而アメニ矣アメニ之アメニ七アメニ猶アメニ乃

踏アメニ脚アメニ足アメニ袋アメニ水アメニ百アメニ步アメニ行アメニ不アメニ付

川アメニ弓アメニ三弓アメニ足アメニ收アメニお足アメニ川アメニ之アメニ行アメニ面

足アメニ拘アメニ茂アメニハ夏アキ之休紙アメニ之休紙アメニ是アメニ

かづきアメニ之アメニ之アメニ人アメニ足アメニ余アメニ奥アメニ之アメニ之

穴アメニ旅アメニ然アメニ本アメニ侵虫アメニ的アメニ本アメニ之アメニ四アメニ

卷之三

卷之三

卷之三

歩アラニヤ
地車一匹
三ツ山一
五ツ山一
七ツ山一
九ツ山一

は空ホの内ニ一々 沖縄ホリニの内ニ
人の肠ハアラ^{アフラ} 音ニ面ニ但村字ニ有
扇 一夏若一夏之化の季ニ一回ニ

紅葉く。やくをかうくかたもまくく
扇が非人扇おおき夏之和名阿布岐
扇園をぢり石松く。中碧末廣

兼扇孔扇を配せ本親ニシテ
此扇もまたうれ子登於トモシナ

扇名の扇紙はおとせ
遊味アビヒトニ
馬ニハニニモウチリシム四の内ニ
二あくまニテモ
松葉モ

仇^{アシ} 化^{アシ} 双^{アシ}、也^{アシ} 一^{アシ} 志^{アシ} 一^{アシ} 仇^{アシ} 僮^{アシ} 一^{アシ}
也^{アシ} 心^{アシ} 仇^{アシ} 競^{アシ}、也^{アシ} 犯^{アシ} あ^{アシ} み^{アシ} 仇^{アシ} う^{アシ}

二意一之をうへ二句え
アタタカトタ
彼方け方其方まわ

消息 おひどもあえひ 横二句
アリサニ
アタラシ
一 あら二 ふかニ音三四ニ声ニ

別不經。多坂の室山越。通お食二句
上 扇揚拳。掌上の字双(かこ)

部 **ハ** へああひへ あひ三句を二
あひありひありとよひま 番二句
あ と云ふも二とあはれす
非 べらまくと二とすニ不該

トの体うち非の上付時ばずりといふ
女 働 **玄** 文 **セ** 益 **新** 藝 **ホ** おを三句
周 **豪** 暢 **施** やけ **僕** おひ一
合 字 **玄** お 二句 **相** 字 **玄**
睦 **二** え布 **又** 一 **絆** 字 **玄**
商 **二** あ人又 **ヘ** **當** 字 **玄**
睦 **二** え布 **又** 一 **相** 字 **玄**
案 **二** え **絆** 字 **玄**
操 **一** じのあやつ **一** **當** **字** **玄**
潤 **アマニル** **ニ** 又 **あ** まち **一** **當** **字** **玄**
情 **アレニミ** **一** あんじ **一** **當** **字** **玄**
れ **アラニミ** **四** え **情** **セ** **勿** **字** **玄**
案 **アタフ** **二** え **當** **字** **玄**
操 **アタフ** **二** え **當** **字** **玄**
潤 **アタフ** **ニ** 又 **あ** まち **一** **當** **字** **玄**
情 **アタフ** **一** あんじ **一** **當** **字** **玄**
れ **アタフ** **四** え **情** **セ** **勿** **字** **玄**

不 **惱** **アタラ** **ニ** 惱 **二** う **闇** **アタフ** **ニ** し
集 **アツシ** **四** え **す** ぐ **二** う **危** **アタフ** **ニ** え
芥 **アリタ** **一** え **薙** **二** う **悔** **アタフ** **ニ** え
故 **アリタ** **多** **呂** **ニ** **高** **一** え **悔** **アタフ** **ニ** え
编 **アリカヒ** **一** え **紹** **二** う **悔** **アタフ** **ニ** え
疏 **アリカヒ** **一** え **紹** **二** う **悔** **アタフ** **ニ** え
欠 **アリカヒ** **一** え **白** **ニ** 又 **二** う **悔** **アタフ** **ニ** え
曉 **アリカヒ** **口** **三** 一 **モ** **一** え **悔** **アタフ** **ニ** え
有 **アリカヒ** **似** **二** て **二** え **悔** **アタフ** **ニ** え
耳 **アガル** **泪** **二** て **三** え **改** **アラ名** **四** え **悔** **アタフ** **ニ** え
能 **アガル** **向** **二** て **四** え **改** **アラ名** **四** え **悔** **アタフ** **ニ** え
飽 **アガル** **之** **二** て **四** え **仰** **アラグ** **二** え **悔** **アタフ** **ニ** え
穀 **アガル** **人** **二** て **二** え **仰** **アラグ** **二** え **悔** **アタフ** **ニ** え

通志

三
四

卷之三

瓦石。あがり焼オル所の内
破 破 上戸 下戸 盖舟 既考

とまく 様あるを作みて学
藝也 これに因る事あれば之
きも本や可也 繫て影て仕

老の名は不^ト知^ル。身の如^フひ非^レ人[。]
盃^{サカツヤ}一[。]肴^ニ一[。]鷄^{フチ}鶏^{タケ}一[。]酒^ニ一[。]

益々新光ホタルハ西の月とお天氣秋
常へひづくて八月の秋の音四つお
同ニ夏ニ眠ニふるえ一ノ秋も

○醉ニ氣ニ耽次ニ乞一はれ、非夜也
○同の後ニ有國ニ有アラ不付付字三句

寒 サムキ
冬 サニル

冬の夜、北風二の夜、此身ふ入二句
サムキタル
を呼、久々四季の夜、おこりれ、翁、
冬、三月共、わくて、五、暮秋

○断ち、射を、衣を、肌を、坐を、
○秋。涙の、飲を、まえ
○月を、月
○サユル
○サエ
○サエ

皆夏カタマリの氣ヒ。さういふ月ツキの事モノが
さ月ツキ一月ガツ二月ニガツ。さういふものあ非アフ
是シテる季風キブンの氣ヒ。もうも季シキと稱スル

樹之之謂柳 謂之生之非極
冬之之謂秋 謂之死之非極

大芥と芥とひなてをくちにすくに之
林 サカキ
熟 マトコ 反もさへも夏之沐底之
の林熟泡ふれ沐未分也沐底之

二月の夏秋冬の内カツにて之れ
付字ニシ。正花ニ極七句を之

花 桜付車の上に着て
梅戸家梅付居て越姫 梅田、梅の
多幸と云ひ、○梅を梅うぶ

楊銅楊鑄楊貝ホヽ非極去ニの也
。若モネホカヨメモ 羞ルニモ 仇ノニモ
黒キヌホカヨメ也。虎の毛ニテウツヤヒ
は。帰ち楊矣。此若慶ノ象ホの。ホニガ

落葉樹を去る。落葉系ト 実葉樹更に葉紅葉
れ。 カヘリナキ 枯葉をも葉落小ヤ如新之
樹葉を落大葉オハシタニモニノリニ
まの葉水ニ極麻夏ニ面ニ
並。 桂也ニ非桂ニニモニモクセイ

行二事本二事付字三句
毎の彦居^{アシカ}世ふき居^{アシカ}越姫^{アシカ}
其^{アシカ}非極。世花^{アシカ}極也^{アシカ}其^{アシカ}非^{アシカ}

早苗 夏く植わる非水 ⑩
アラモト
早し女 よ女房 あ人争ひ非意
アラシコトハコノヒト争ヒ非イ

猿

一すら一集を一猿猿一えぞ
猿の猿うそホ一之れ付字面

集を秋く猿ウニ非人申ニ

申一庚申一ノ但かのさろとひき

。申木猿子双ノ云ニ非人生申猿お

猿一隻眼ニシ象牙も二の内

さくへうれ神變ノ神祇之端

肴非生匂ニヨリ魚乾ニ匂

皿一名の皿一游の皿ニ更

鞘刀ニ急ニ出内ニ

筆第一占ニ筆錢筆筋ノトモれ去

竿千竿木の内ニ今一毛ニ和名佐乎

賽競神祇之匂ニテ尺丈の時非神

交采花緋共ニ神祇之采ニ去

里字去人居而人里三里木不經

里林木多々人未人之神祇之非居

。里の近處名ふく水也ニ非居人

在人居人入在不ハ寃子ニモ

崎二名不ニニ水邊ノ付字ニ

沢二名不ニニ水邊ノ付字ニ

坂二名不ニニ山號ノ付字ニ

ふせわ、ゆく。年の坂ナヤアノ非述山

。老の坂述懶ノ非述名ふはハ山號ノ非述

度居不中乃決ぬ接ぬ其外

矣無死死度深ホノテ一鹿而去

度既死人備人瞽女盲ホガ

檢校勾當の度既藏の内ニテ

勾當の内ニテハ候の檢校木不經

。度既の檢校勾當ハ共ニテ變ニ非人

勾面カマツ以下シモの毛政モウジンの官名非尺
傍ヨリの上アベと毛政モウジンとつりつて換接ハシヅケと

く職名シキニニハヨヒト勾面カマツ又アリハ

沽サル呂ル一水イチミツ一心イチシンニカミシヒ不姫ハナヒ

舡カケス船ボの宿ホシ秋ヒマラの月ツキ

因ヤビ一ニニヒト詔オハシさびサビおオはまハマくクセ

縦ヨリさびサビかカさびサビあアセセる水ミズみミ不姫ハナヒ

深ヤラス呂ル一人ヒト一和ハ一イおオと

さサー布ハタケ小コ西ニシ去裏ムカシニ

泡ハナミ施ハタケ河カワも水ミズ小コ方カタとトこふ姫ハナヒ

きキきキふフ萩カキ水ミズホホの山サン一イ小コ方カタ

小コ字シテとトこ付ハタケ姫ハナヒ

狹ヤハリ狹ヤハリ乃ノ遠エロ衣ハタケ皆ハタケおオ小コ不姫ハナヒ

下シテさサうウさサげゲわハくクて字シテとト

先シテ字シテとトすスづヅわハくクて字シテとト

下シテさサうウさサげゲわハくクて字シテとト

先シテ字シテとトすスづヅわハくクて字シテとト

下シテさサうウさサげゲわハくクて字シテとト

先シテ字シテとトすスづヅわハくクて字シテとト

下シテさサうウさサげゲわハくクて字シテとト

先シテ字シテとトすスづヅわハくクて字シテとト

下シテさサうウさサげゲわハくクて字シテとト

先シテ字シテとトすスづヅわハくクて字シテとト

穂 二さゝり又モ 清々てニ
されば四え玄不語 暖々てニ
指 トキナ字玄ノ 詰々て四
さうも云へて 四
月代 月代不語 探々て四
侍 非入武士ハ今倫 剥々て四
佐助のこそラ非永 佐々
境 ニシ右木がニ 裂々て四
達ニ 玄ニ之 ほへて四
テテニ 把一 安室ニ
さへる 一降ニ百 ト
絞 一絞肌又互 岩
防 一玄ニ之 室
不祥 トニ孟羅 四
核麦 非居 ト
更 安室ニ
玄 字玄ノ 八
字玄ノ

故

京 越 浩 九毛け乃平手西去
禁中 瓦委 大室 おの朝ニセウ
禁中 内裏 瓦委 重井庵 大室
大内室をけ教半おと故浩ホセウ
君ニ 二玄ニ之オヘ 公道ニセウ
君代大君我君ホ非入 当人ヒ
さうてお君と云ひ又昭君君ホ人倫
立の志人倫ヒ 音唱(トシオ)ヒ
客一人傷ヒ 玄ニ之客更又モ
金一ノ金屏金紗ホガヒ付字三弓
かひニ面ニ力泥又日あ力金泥打
泥子ニ手金すくかりそハ面ニ
仰天 非意 駆向ヌ又心ハ玄ニ

通
三
内

意の別ニ七匁 衣ニニカ非衣ニ

キヌ
一 納糸絹張木ニ
カリキヌ
カル
麻糸

亦可也。高祖之有天下，非以仁明于世也，然其所以取天下者，此也。子房以刑名之旨，明于张良，而用之于沛公，故能成大业于天下。若以仁明于世，必不以刑名之旨，明于人臣也。

一 搶衣一秋之非夜衣也。三晝之

一木不一木、表不一見也。

おれも云々 まほるをひ

○三ノ二
○三ノ三
○三ノ四

九拿云石扁ニゆゑハ衣板バあゞジ

スノウ等云ふ所皆、ノルマニア

順和名=岐沼伊太と之上ノ和歌の

「此處山河何等之秀美也」

おこう、社の御事、一、二、三

嘉慶丙午年正月廿二日
王國林書

誰一的の歌究ニ芦の歌其ニ

うるのな 非生 乎之高益

非生又々よつるぬ七句

雄
一
紙子一鳴をねのせ、一鳴を

物だらのうるおの姫へこむるは(ハ)ま

秋の能子一弦冬
鉢焼顔之和若木

蚕一美名一秋之蚕汎言之又二

キリ
モハ虫ニセテモ虫ナゲの鷲ホ莫名ニ

萬秋の清めに降れし夜アタマの雪

秋の落葉
かわらべ
かわらべ

勢力のかこふは非若
猶の勢力をもれ

秀のあ非水、秀ハ連、秋毎不芳

相^リ
一
秋^ノ
夜^ノ
夢^ノ
萬^モ
秋^ノ
也^モ
夏^ノ

材二三相壘熟之又立符字以三句

菴二秋へ異名る化の木を二の内ニ
也菴が水^{キウイタダキ}載菴減菴を水^{トナシ}

菴の閑秋、水邊極めさせ得てゆく
。菴用元月の菴名極め越後之れ

。菴極^{ハシマ}根^{ハシマ}ハまく^{ハシマ}根^{ハシマ}ハまく^{ハシマ}

。菴のむ能^{ハシマ}根^{ハシマ}非極^{ハシマ}菴^{ハシマ}を亦^{ハシマ}

菴^{ハシマ}秋^{ハシマ}菴^{ハシマ}の窓^{ハシマ}十月五日^{ハシマ}

奇^{ハシマ}ハ^{ハシマ}連^{ハシマ}逃^{ハシマ}秋^{ハシマ}

菅家文草云^{ハシマ}菴華之過^{ハシマ}陽^{ハシマ}世

俗謂^{ハシマ}之殘^{ハシマ}菴^{ハシマ}連^{ハシマ}綠^{ハシマ}を作^{ハシマ}

瓦^{ハシマ}菴^{ハシマ}子代^{ハシマ}よりひ^{ハシマ}ニ^{ハシマ}年

界^{ハシマ}を^{ハシマ}西^{ハシマ}ア^{ハシマ}猶^{ハシマ}菴山^{ハシマ}詠^{ハシマ}

す^{ハシマ}む^{ハシマ}の才^{ハシマ}乙^{ハシマ}女^{ハシマ}花^{ハシマ}ホ異名^{ハシマ}

近年も^{ハシマ}る^{ハシマ}菴の異名^{ハシマ}す^{ハシマ}李^{ハシマ}と^{ハシマ}て^{ハシマ}此

菴^{ハシマ}四^{ハシマ}菴^{ハシマ}泉^{ハシマ}氣傷^{ハシマ}非^{ハシマ}水^{ハシマ}

本^{ハシマ}字^{ハシマ}き^{ハシマ}ト^{ハシマ}こと^{ハシマ}非^{ハシマ}極^{ハシマ}の付^{ハシマ}

二^{ハシマ}字^{ハシマ}去^{ハシマ}口^{ハシマ}本^{ハシマ}竹^{ハシマ}哉^{ハシマ}經^{ハシマ}

推^{ハシマ}丈^{ハシマ}人^{ハシマ}傍^{ハシマ}本^{ハシマ}き^{ハシマ}く^{ハシマ}とも^{ハシマ}非^{ハシマ}極^{ハシマ}

本^{ハシマ}ノ^{ハシマ}薪^{ハシマ}本^{ハシマ}几^{ハシマ}本^{ハシマ}け^{ハシマ}居^{ハシマ}二^{ハシマ}方^{ハシマ}

故^{ハシマ}姐^{ハシマ}三^{ハシマ}そ^{ハシマ}路^{ハシマ}共^{ハシマ}非^{ハシマ}山^{ハシマ}本^{ハシマ}二^{ハシマ}勺^{ハシマ}

岸^{ハシマ}二^{ハシマ}名^{ハシマ}不^{ハシマ}ニ^{ハシマ}水^{ハシマ}邊^{ハシマ}人^{ハシマ}字^{ハシマ}三^{ハシマ}方^{ハシマ}

○彼^{ハシマ}一^{ハシマ}尺^{ハシマ}委^{ハシマ}非^{ハシマ}水^{ハシマ}岸^{ハシマ}面^{ハシマ}依^{ハシマ}タ

旋^{ハシマ}一^{ハシマ}除^{ハシマ}底^{ハシマ}一^{ハシマ}島^{ハシマ}たら^{ハシマ}少^{ハシマ}水^{ハシマ}又^{ハシマ}又^{ハシマ}

孝^{ハシマ}院^{ハシマ}本^{ハシマ}非^{ハシマ}尺^{ハシマ}道^{ハシマ}あ^{ハシマ}高^{ハシマ}又^{ハシマ}又^{ハシマ}

行人^{ハシマ}行^{ハシマ}老^{ハシマ}又^{ハシマ}委^{ハシマ}之^{ハシマ}戒^{ハシマ}行^{ハシマ}尺^{ハシマ}委^{ハシマ}

行^{ハシマ}橋^{ハシマ}行^{ハシマ}水^{ハシマ}底^{ハシマ}之^{ハシマ}又^{ハシマ}又^{ハシマ}

足^{ハシマ}委^{ハシマ}及^{ハシマ}因^{ハシマ}ハ^{ハシマ}水^{ハシマ}底^{ハシマ}之^{ハシマ}失^{ハシマ}水^{ハシマ}底^{ハシマ}木^{ハシマ}

卷之三

孫川非在
於玄武於之淮淮之
祇墨會山
夏之祚祇之非山

吉文正 月ニ木屋 乞ノ久月 キヌ

二章一
三章二
四章三
五章四
六章五
七章六
八章七
九章八
十章九

小二竟二皆打去付字三句

○小望奈林ニ○小家ノが立タ之シ久ク

○はる山野に非水ありハニカ

二十九日一鼓而少鼓也
董王三召又召於二

字勢りても四苦^ニ水之和名波須

肝キモ
一隻イリ
一羽イフ
莫モ羽ウ淡タニホホ又アユ

源 宇治ノ江二弓 桂石波

アラカルトのカクテル

二ノ子 はまくと吉川の賀
利 二ノ子

始
此
一
之
今
二
之
中
之

キサス
兆 氣 一 芽 一 之
キタナシ
黒 之 二 之

氣乞之七句
公九公後四之

兄子非人
清字志之

切字法
キタフ

卷之二

うらや一弓の弓一弦月一弓勢二面

七

弓毛ニ七白 矢毛ニ箭羽の毛ニ七白

卷之三

がのせん

○年ムツの矢ヤ = 矢ヤハニカ 弦月ツキハ面マツコニ
○楊ヤシ弓ヤシガケ オ弓ヤシガケホヘチヒガ 弦月ツキ = 面マツコ
弔タスキ 手タスキニカ ヲ弓ヤシガケのタスキニ
木棉ヤシガケ 穿タスキ向タスキ木棉ヤシガケ 木棉ヤシガケ

のうけをかくに非
打去

寅未柳ニ面シ
タツカレ
和名由布

アハク基ツカニシテ
あさあしけど二方大著ニ方

タアニコタセ白之玄姫タと内乃

○夕煮二種或燒黃肉而烟不經

夕を川名ふく夕る夕え山ハ非名式時

○夕月未非夜夕時うの月也

○山東之舊之久之美者也

夕秋 夏之赤紙之水邊之夕秋也

自古一夏之夕乃立善焉

タ立雪又至夕西之立雪三日

文旦一夏之もも夏之実ハ秋ニタニ有
ヒタチ一時ナサウヘリハアキナ

タラの花更にむ極めへ若而之

秋一
秋之もハ夏之
秋ベシ觀之

相傳之書也。季札之文也。

陽女陽々之水陽反否也之水

ユカ
温泉、水边之非山、又名不_二あるぬ衣於

東一居正之非夜ここ八葉ひそ七句

指一
一名の指一
指切一

雪 四へ冬へおとし候名 一代季ニニ

莫名化の季ハ西シテ候名一化季ニニ

寒^{ミヅレ}やき氷室^{ヒムロ}をすまさあせり

寒不^サ李^{アリ}れ^ニもま

雪のむきて山のむとも不^ホのむ

キ^一はる小^セねの花^モる友^ヘ

月の雪むの雪^モの雪^モのをのう

既^シの雪^モ既^シの雪^モホ^ハ小^セね^モけ内^ニ

非^モを^レ障^モ内^ニ信^モ許^モと^ヘい

雪^モのたゞ^モの^モの^モホ^ハや^クひの^モ

キ^モすうて非^モ障^モ准^モ化季^モて^モを

雪^モ君^モけ^レホ^ジ殊^モ絶^{タケル}タル

清^モ涼^モ名^モ沙^モ君^モの^モホ^モく^モ

雪^モち^モ樹^モ落^モま^モ氷室^モの^モ夏^モ

未^モ君^モわ^モそれ^モ君^モけ^モけ^モ

あらあと^モあひ^モあひ^モ。あら山^モ非^モ

山士^モの^モあ^モゆ^モか^モも^モ消^モま^モ

山金^モ一万^モ引^モて新^モとあれ^モ

連^モ俳^モ共^モ不用^モ之^モ縁^モ新^モ古^モ集^モ

最^モ五^モ匁^モち^モ立^モ立^モ立^モ勢^モ二^モ

幻^モ不^モ經^モ現^モ絶^モ見^モ是^モホ^モ二^モ

幻^モ不^モ經^モ現^モ絶^モ見^モ是^モホ^モ二^モ

幻^モ不^モ經^モ現^モ絶^モ見^モ是^モホ^モ二^モ

幻^モ不^モ經^モ現^モ絶^モ見^モ是^モホ^モ二^モ

行^モ字^モち^モ往^モ二^モ方^モか^モ立^モ不^モ經^モ

行^モ字^モち

多
一
而
去
之
可
以
而
去

二八面

やる ちや 又日お 祝うても年ニ古
めつらやくの日ニミ ▲ 路ニミ
▲ 惠 メグム 四乙

めぐる時
まえ
▲ 旋ゲル
七句古

10

宮
前の宝二刀石井ニシマサ
社 祖^{ホコラ}お二面ノ鬼若のまニ面ニ

空居のえ二月名不一もがま
旅の故ハニカニ旅の右に不經
夢中至るのれどおと京宿れましり
ま處ちよ茎生のえおひ室未のえ
只の故名ふの故名ふのちホセト
旅波のふ大はのえおひを若り名ふ
名ふの故名ふの古に打口ひたる

まほのま玉吉のまおハ神祇の名也
名不の神ニオク鳥の神ニシカム
何故乎ニる又皆不經付宇ニル
神祇とを名づけま一方彦バニラ
穴社 宮の字ニキトホの穴ニ西ニ
神のまニル仕ニオク

却只二名不一旅ニモ京洛かすニ
詠のまニテる鄙田令なる古ハ不疑
名處の於トキを若名不のま古ハホレ
金古のまハセラ旅居の古ハニテ
禁サ百事モアサニ大内ホセラ
只の起トキ居のま曰名不のま古ハホ
セラホ禁サの起ニテラ旅居の古ハニテ
旅の起ニテ旅の古ハナガホ古ハニテ
金居のまニテホ禁サの起モ皆ニテ

月の如きの如きの旅名不思の如きが
京洛一画のうち二つ古にハ不思

廣雅疏注卷之二

かちをえかごちる
三月

帝室子教三吉也三姓也お二る
ニキ ニユキ ニモ ニモニタ

内拔
夏之水边之许底之

三ツキニヤツミタチ
内調ひぬ内獄内坂内垣あはれ也

乃村山家秋ノ元山猪口巴
不也作もじゆくすをまつる難

テグラ
第一
御印寫
御紙も此不隨

神子へ神モセウ子ニル也不疑

御は三守氏造内氏内也之也
己の月の後妻之水也之御底之

南二竇ニテ南來去之有無不詳
ノリ

アハ
一ノ木不動院へ参詣も
鹿 梓の内 あ裁 おニ面之

の助ニ又二之れニ非居又何事不無
字も

とて、一方めでたすに二もの

獄する所ニ又之ヌ甲斐松の根ニ又ニ

「ツの事は、おもての事は、要はアヤ被
一 水をくみやねーい」村字三九

一
名
水
深
二
也

卷之三

卷之三

三十一

卷之三

三十七

禹極

隣二名ふニニ水きの字も不體
春秋年ミナモトの陵ハ非水ミタケルノ一えもち
源一水きの氏ミタケル一非水又あの根えと
ほと云但ミタケル又一非水ミタケル元ミタケルニ有
り字きえ源ミタケル汀ミタケル波ミタケルホニテ
ミタケニシテミタケル姫ミタケルモトウホミタケルニ有
あめむひまくミタケルああえりミタケルあ葉ミタケル
あ風ミタケル一陵ミタケル深ミタケル一水邊ミタケルえ水邊ミタケル
あ莖ミツヅグ一之莖ミツヅグおえまよミタケル方水莖ミタケルの近ミタケル
多ミタケルの近ミタケルおえまよミタケルの近ミタケル又よば面
文ミタケル一又ミタケル三者ミタケルセラふのねわミタケル今ミタケル
之ミタケル之ミタケル之ミタケル水邊ミタケル立れ今ミタケル

蓑 一笠ニ二色有ミドリ方カタ小せぬシテ
田ミドリの傍ハタケに夏アマの虫ムカシが入スル新ハタツ之ノ秋ハシナル
綠ミドリ 松マツ一小ヒナの植シダレ一ヒナ水ミズ一ヒナ木キ二ニ方カタ
綠ミドリの袖スリ綠ミドリの胸ヒザ三ミツの心ハコ人ヒト參スル不曉ハシナフ
綠ミドリ立タチ差シテ綠ミドリ走ハシメテ○ 嬰ミドリゴ四ヨリ不曉ハシナフ○

实
系二本二
系二

字をへん後ミタシナニ
身フツメなる 像カモとの身フツメの身フツメ身フツメ身フツメ
身フツメをいとよ夏ウキ身フツメお述シム身フツメ身フツメ身フツメ非述ヒスメ
身フツメ入シム秋アキ人ヒト身フツメ身フツメ身フツメ身フツメ
耳ツバ一ヒ耳ツバ耳ツバ一ヒ計布カキ耳ツバ一ヒ耳ツバ耳ツバ一ヒ耳ツバ
身フツメ一ヒ身フツメ身フツメ身フツメ身フツメ身フツメ
凡コトハナガヌカラル身フツメ顎ミツキ聲カタニ記シテ身フツメ

人ノ月ニ有レバアテアラモアレルホノ又經
凡訓ぬ山川諸々アリテ萬物四

語 四へうづう夜裏へ ③

之をとどめふのうする去

三八之力 三傳非山 挑列八水邊人
三井也悲山 水刃人 芳也三三句

三輪り清紀伊大和共水也。三三句
三輪のあり非水。三輪多喜慶也。

三月更立秋也 步月ハ非夜 〇

三の世 王人ありけり。姓字を三重
三字うちも てらまくつめにけしらう
うそゆんじれ多シ。世もスアラゲ
○内金云 三字うちかと云へ。象牙張が
とひが きみやの三字はくと云
がへ 中略。家と并む字を三と

じうもすまきれどひがまとがま
と入てハ一字トハ佐羅トミ
古貞徳の自アニミシテ改スル
より多クレ却て妙多遅ヒモリ
シテヨリ又ハ心カタニモアレ
。我ハナ皆人偏ニ已ニ字近シ
立ば氣取門の字ニ後ウトシヒテ
人偏のお姫リムヒトキヤヌリガ
陽ウガ不體又カカヒトキヤヌリガ
故ト人偏を省シビ我シトカタテ
てふそ成ガキヤ其上我シト連續
の角ヘ立ヒリト今ヨミキウ
ちのう一ちのき二にてふそドアヘ
セヲモの後スル用之又箭弓ハ
涪助ニ連被面之逃セラモ之

帝 カニミタウメゼタ ▲右 一ノ
あね アヘヘアヒモアヘヘ ▲猥 ミヌリ 二ノ
眉目 ミメツ 真之メ ミツメ ▲猥 ミヌリ 四ノ
陽穀 ミツガキ 祚紙人垣 ミツカキ ▲蒙 ミタケル 四ノ
船 ミツカイ 航入水急之 ミツカイ ▲乱 ミタケル 四ノ
左 ミツカイ 二ノ 淵 ミツカイ ▲皆字去之

之

海 カニミタウメゼタ 二名亦ニ二ノ山就水込之勿字三ノ
名亦トテ非山又非水。川崎非山。
は海カニミタウメゼタ が原名亦ニ非山水海也。三ノ
は海ハ山就之水込之海ニ海ニ式
麦海の名和之メ カニミタウメゼタ 亦ニ海ニ而之
麦海とぞうりハ我田の海名をもす

鐵 カニミタウメゼタ 布ニ一板目ニシテ鷦不煩

彩 カニミタウメゼタ 二繖ニシテ共ニオ共ニ非障水

波 カニミタウメゼタ 二水一ノト云海ニ號一ノ波云
四昔 カニミタウメゼタ お去波ハ水込之私名之保
ナーノルニの用之 干写ハ而之
汝干ハ莫ニ干汝ス波のひるホハ難ニ
月のむ波波干の波本波ア内之
入の字一ノト叫て不經字ふてアフ
。波刃坂名アス波も西去水急姫
塙 カニミタウメゼタ と焼 カニミタウメゼタ 波塙食之塙波塙食
木ハ塙の字ニ皆水込之塙木非水
塙 カニミタウメゼタ 密塙 カニミタウメゼタ 二ノ名亦勿字之塙ハ而之塙の
名ナリハニ有去け波をハ每ナリ
塙 カニミタウメゼタ 姫塙水ハ非水喰塙ハ非水
。ふせぬの塙ハセラ去目をもの塙之
。志ナーノと云波ニ有アリハ不塙
。塙密若不越姫塙やき非人

はづか 故へりと吸へく弦よホハ

夏ニ又あとせく弦よ吸へ故へ

名ふのふはづか又一これへ清ニ二

はづかあり而ニ名ふのはづか三

時反一々く秋ニ一小ヤね一々お

反のた三々かの降れ三百財不

月はてを虫否廉比本弦べ林く

高時カ秋く財のあいをく

地洞の時反玄く毛く桜の財今夏ニ

川高松風の時反冬く毛く共ニ非降

走毛毛毛へ風体へ降れ二毛

雪ニセル毛のあくねに核へ毛

風のわくうて吹と走毛毛と云め降

毛と説くと雪毛毛毛と毛云く

云おニ毛く又毛ニ一林ニ一毛お

萩彦葉葉尾麻虫鷗鷗毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

。消レモ幼葉し毛毛。枯葉はて毛毛

眉^{ヒナヅチ}院^{イニ}毛のやまへ故へ述懐へ老ニセル

月の裏秋へけくみせぬ毛毛非降

白毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛付字三毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

白波盜人の毛非水白川の冥山毛毛

非水共毛毛毛。鮑毛毛毛毛毛毛毛

。毛山毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

細竹 韶へ毎すホセタ竹ニ三句

多本裁姫付字ニ有ホシテ繁葉ハ秋

芳蒲刀 湘共夏^ク芳蒲皮新^ク

けやニ呂一^ク花希^クト夏^クス^クて

芳葉^ク一花の寧^ク戎^クト^クの内^ク又^ク

夏^ク近^クの異名を季^ク不^ク用^ク

芝^ク呂一芝生^ク一芝^ク一^ク付字ニ有

芝燒^ク志^ク茂^クハ夏^ク色付秋^ク枯^ク老^ク

宋^ク一名木の^ク生^ク一^ク植^ク唐^クホ^ク付字ニ有

本蘿^ク凡^ク本推^ク美^クホ^ク有^ク付字ニ有

名木の^ク生^クハ極^ク越姫^ク但^ク折^ク

楚^ク又^ク房^ク橋^クア^クホ^クハ非^ク極^ク本^ク火^ク

火体^ク成^ク。は本^クの^ク生^クの^ク房^クホ^ク非^ク述^ク

批^ク一^ク秋^ク实^クも^ク累^クリ^ク本^ク火^ク

材^ク又^ク付字ニ有^ク和名之比

志^クニ^ク極^クね^ク難^クハ^ク天^ク歲^クハ^ク有^クれ^クと

花^クと^クハ^ク累^クの^ク引^クい事^ク有^クり

○檜^クつむ^ク切^ク檜^ク同^ク切^ク累^ク小^ク極^クね^ク

及^ク夏^ク之^ク難^ク。檜^ク燒^クハ^ク非^ク極^ク及^ク之^ク

芳^クレ^ク呂一^ク極^ク越姫^ク又^ク名^クの^ク極^クね^ク

一^ク共^ク夏^ク。滋^クレ^クキ四^ク之^ク難^ク非^ク極^ク

芳^クレ^ク一^ク區^ク不^ク經^ク又^クよう^クお^ク

枝^クお^ク非^ク極^ク先^クの^ク乃^ク遊^クる

留^ク一^クある^ク之^ク新^ク留^クハ^ク秋^ク之^ク付字ニ有^ク

け^ク飲^ク一^ク絞^ク一^クま^ク本^ク一^ク降^ク一^ク之^ク

古^ク人^ク一^ク生^ク一^ク小^クせ^ク二^ク詞^クの^ク古^ク之^ク

あ^クま^ク言^ク何^クホ^ク二^ク方^クの^ク古^ク之^ク

破^ク一生^ク死^ク一^クき^クる^クう^クする^ク二^ク方^ク音^ク之^ク

入^クタ^クニ^ク孤^クホ^ク一^ク志^クひ^ク之^ク和名之^ク

古^ク一^ク志^クひ^ク之^クあ^ク一^クあ^ク之^ク

尻

平

再版

一せ款一魚村一脣臘一脣臘ホニ
河の後セラ脣臘はうるふ立

。後言後体おこうろハ西のち不體
師直後志異姑人子主師

直者本は人傷ノ又云直士者

尻立人あの字とわの下付を大概人邊

又云原オ立後親故臣ト不化健

鹿尾立士本是非人ノ又あの下ニ

師の字と付て非人ニ除師醫師

院お師立等も齒附非人ニ子ハ依事

紗一紗の女一紗もニ第一山紗ニ

あづ山う昔非入紗の女ハ人傷斐

麻立あウニモ一呂名二愁代の季ニ

糸附多筋繫板也糸本筋て林ニ

芦の音キ一林ニ人筋立テ林ニ

角と房麻乃子麻立ニ麻四口麻草

木夏ニカセキ刻式のむ新里足ニ林トモ

。すぐるハ麻と博とひきひきひそひそひそ

紅葉名錦馬足名ニ麻付字而

。麻の字ハ 鮎と足音ニ非生一更

略一ノ万ねき昔林ノ加賀略焼

木、新く非生、又之略立次名之而

志賀非水松枝ノ水を之山越、新く

志かえの山越、猿ノ毛と弦ヘ非族

宿、一名の岩ニモ岩を、羈宿ニ

やどやどりニ面へあ木の穿ニニカ

宿を述懐之町名をハ非述、共ニ非人

。同名居てもその内名非居人
城 一音ニニ付字ニル 非居

住連 神紙くかうハ累且ニ
トテ 久てニニ付字ニカト活林ニ
代 ハからる三るよ不題付字ニカト
差 金云字志てみその一き^{レメヂ}
高き床^{レタモ}キホてみそにけてふと音を
下モ ハニもとくる^{レタモ}あうる^{レナ}
皆ニカト去 上^{レタモ}不題 下^{レタモ}非人
下タ 字志^{レタモ}さげぐるのれニカト
下タ 蔷^{レタモ}ま^{レタモ}極^{レタモ}越^{レタモ}宿^{レタモ}志^{レタモ}
下の节 痴^{レタモ}非^{レタモ}夜^{レタモ}衣^{レタモ}下^{レタモ}不
○下^{レタモ}紬^{レタモ}ま^{レタモ}衣^{レタモ}旅^{レタモ} (ヒ)
愁^{レタモ}只^{レタモ}ニ^{レタモ}ニ^{レタモ}名^{レタモ}の信^{レタモ}支^{レタモ}不^{レタモ}
愁^{レタモ}び車^{レタモ}志^{レタモ}愁^{レタモ}返^{レタモ}行^{レタモ}而^{レタモ}
愁^{レタモ}之^{レタモ}非^{レタモ}極^{レタモ}而^{レタモ}愁^{レタモ}秋^{レタモ}而^{レタモ}
愁^{レタモ}の^{レタモ}立^{レタモ}名^{レタモ}水^{レタモ}边^{レタモ}也^{レタモ}越^{レタモ}
余ハ不^{レタモ}居^{レタモ}事^{レタモ}あ^{レタモ}とい^{レタモ}ハヤ^{レタモ}式
○虫の下立^{レタモ}又白^{レタモ}一^{レタモ}落^{レタモ}のまゝ
著^{レタモ}掲^{レタモ}馬^{レタモ}発^{レタモ}也^{レタモ}玄^{レタモ}いちらも^{レタモ}
ち^{レタモ}一^{レタモ}ち^{レタモ}き^{レタモ}一^{レタモ}ち^{レタモ}れ^{レタモ}や^{レタモ}

強 = 駆 = 下記 = 二 = 有 = 一 = 知 = 二 = 有

カル 二 あう 二 あう 二 あれ 三 ま る

如 あく 一 あう 一 あう 一 あう 一 あう

して 仕て 而 二 と き 之 打 今 既

仕て 二 と き す せん せそ ホ 二 有

仕て 両 う ひ 只 の て あ ふ 之

。而 二 と き 之 両 う 二 ハ 両 う

一 両 う ほ て 也 両 う 二 と き

。両 う ト 二 と き の 中 み て も 二 と き

。ち く う ぬ 一 二 と き = 不 透

き か ま 一 二 と き の 透 お 会 透

へ 透 ふ 一 二 と き 透 一 二 と き 未 透

空 一 二 と き ま 一 二 と き 未 透

捨 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

へ 空 一 二 と き 一 二 と き 捨 一 二 と き 未 透

捨 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

者 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

柵 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

柵 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

者 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

柵 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

者 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

柵 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

者 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

柵 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

者 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

柵 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

者 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

柵 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

者 一 二 と き 未 一 二 と き 一 二 と き 未 透

卷

V

甲子

卷之二

お底の夷戎のえ比次不姫

○ 173 金云あ比次多喜ハ表ハラセミ
紳士 人傷レ 紳士のスルヤハ夜レ
繪一 畵一 レ 繪墨絵ホガ
紙一 畵一 レ 繪墨絵ホガ
絵也アモホモカトヨウシマモカトヨウ
衣裳の色のむとアリテヒテ被毛キアリ
○ 正花許ハ御みて萬財柱也越姫
笑一 花一 レ リラフガ
立一 立一 レ リラフガ
辞一 みがごーく房の多ひ又ニ斐人
立一 おまえ

卷之二

卷之二

通下

口下

耳本

ひちうの月五月二日サコニアラテツカヒ四日ハタケを差シテツカヒも旅アラテツカヒ者カヒをカヒまマテツカヒ六日ハタケをマテツカヒまマテツカヒらラ。

ひちうの字後ハシタニ又圖カヒ。

人の月二月七日ヘト東方朔占マタタキ云正月一月占鶴二月占狗三月占猪四月占羊五月牛六月馬七月人分穀人字カタナメ古人の名等人像カタナメ女カタナメの名等カタナメ人像カタナメ。

○帝王親王妣安あは人像カタナメ僧サムライも大師亟師ボザンガウ又一宗の宗祖の鑑カタナメも人像カタナメ。

人ヒト尼化素門ヨスモビトお二ヒト後代ヒト非人ヒト。人看ヒトミテ人目ヒトメをマツメ人ヒト。

独ヒト只ヒト一月ニ一本ヒトこれ。

独ヒトハ人像カタナメもカタナメ人ヒト非人ヒト。日本ホの独ヒトハ非人ヒト。一文字ヒト獨ヒト一人ヒトが去カタナメ。二入ヒトも准ヒト之ヒト。獨步ヒトボク獨吟ヒトギンホヒト也ヒト。獨活ヒトウハ不姦ヒト。

跋ヒト一名ヒトぞヒトて一人ヒト人像カタナメ。

山照ヒト木ヒトの山ヒトニ一極ヒトの名ヒト。一ヒト皆ヒト也ヒト。非人ヒト尺ヒト。一ヒト知ヒト。一ヒト生ヒトれ。一ヒトひげ。一ヒト名ヒト比ヒト知ヒト。一ヒト生ヒトれ。一ヒト矣ヒト。一ヒト矣ヒト。一ヒト述ヒト懷ヒト。龍ヒツジ。非人ヒト。是ヒト。龍ヒツジ。二月。年ヒツジ。一ヒト未ヒト。一ヒト也ヒト。和名比豆ヒト。一夏ヒト之ヒト也ヒト。子名朴ヒト。也ヒト小濟ヒト。也ヒト。

秋之候と弦ひす林く

蝶 蝶蝶木わ日光着お不姫

電蕉一ひだり節度ひだりも皆毛

ひだり驚絶うおは夏くじ門又二

ひだり毛ひだり山木おもむ

離感うひみ一かきうひみ一毛二

ひみ奈ひみ遊立ひみ飾ひみま

ほのひみ奈杜感ひみ難ひみ紫

八人音八人力御音りうて七

独草偏等ホニガム付定ニ

一夏非尺公苑ハ及お一夏ハ及

。一ね非常辛嘆うぎうび

一村居不ニ一極ね一ノ才去

名の一類一多々お又モ西去

一系夜モ衣モ余モ冬モ皆秋く

相於柳楸木ハ日え

。一家の夕猿く重く一家のみハ非旅

破夏ノ非夜弓お一夜ニ弓毛

紳露紳紙く和名比保路岐

常陸常紳紙く重く正月

綱一名の綱一衣類之急材一花一

皆わしを笠あらの綱ハ非衣和名比毛

下綱表毛之衣類之急材下綱の宣又

おうてそく名ふの附付字ニ有

瓦四人訓四人力訓竟うりて西

。瓦日非夏。瓦收非人民不處

けれ一擧ぬ一ノ付字ニ有

東二ノ竜ニあらま西四所ニ不題

疊二ノ日不題四中ニハ西

彼岸ヒガ去へるのひづれにス故シテ

時正ヒサおもつての彼岸ヒガハ熟シテおも

先ハシみてハニ電イナカリ七夕キセ天象テンショウの日ハ

向カミ二ニよりて二ニる去リ此ハ日ハ不ハ始ハ

先ハシの後ハシタとハシタ火ハシタ夜ハシタ月ハシタ

おの連陵ハシタの向ハシタ二ニる始ハシタ日ハシタとハシタ許

月ハシタとハシタ解ハシタ不ハシタ始ハシタ未ハシタ盈ハシタも又

火ハシタハ前ハシタ本ハシタ烟ハシタ一切ハシタの火体ハシタ二ニる

不ハシタ氣ハシタハ八ハシタの内ハシタ人ハシタ狼狽ハシタの火ハシタセハシタる

こどモ火ハシタ照モ射モホモあうモの火ハシタ而ハシタ

くモ火ハシタハ七ハシタ九ハシタ但ハシタ士ハシタのモ火ハシタ而ハシタ

夜ハシタうモ面ハシタ去ハシタかモとモうモれハシタとモ

○モ若ハシタ火ハシタをモ火ハシタへモとモみモれハシタとモ

非ハシタ夜ハシタとモ火ハシタされハシタばモすモて

くモ火ハシタとモ氣ハシタとモ然ハシタとモ非ハシタ夜ハシタ

行ハシタ燒ハシタ燭ハシタ亮ハシタ炬ハシタ火ハシタ角ハシタとモ许モあモ

の火ハシタ面ハシタ又モるモよモるモたく火ハシタ二ニる

火ハシタ燒ハシタ至ハシタ紙ハシタ非ハシタ夜ハシタ居ハシタ

○モ灯ハシタのモ花ハシタ火ハシタ衣ハシタ火ハシタ衣ハシタ非ハシタ毛ハシタ

火ハシタ桶ハシタ大ハシタ共ハシタやモ衣ハシタ火ハシタ桶ハシタ夜ハシタ

のモあモそモあモうモ絃ハシタ燒ハシタ火ハシタ月ハシタ

冰ハシタ室ハシタ夏ハシタ雪ハシタもモ消ハシタるモ橘ハシタ夏ハシタ

雪ハシタ七ハシタ夕ハシタ氷ハシタのモ面ハシタひモトモ呼ハシタてモおモこモ

○モ貞ハシタ氷ハシタ四ハシタ月ハシタ九ハシタ月ハシタとモさモれハシタとモ六ハシタ月ハシタとモ

れて正ハシタとモ氷ハシタ室ハシタ守ハシタ人ハシタ傷ハシタ夏ハシタ

○モ氷ハシタのモ換ハシタハ元モ。氷ハシタ急ハシタハ冬ハシタ水ハシタ起ハシタくモ

△モ一モひモ一モすモるモ一モこモはモ木モ木モ一モひモ

△モ饭ハシタ洗ハシタ湯ハシタ汗ハシタ經ハシタえモ熟ハシタえモ

△モ麦ハシタ秋ハシタ入ハシタをモ本モ二ニるモ人モ熟ハシタえモ

△モ麦ハシタ秋ハシタ入ハシタをモ本モ二ニるモ人モ熟ハシタえモ

干二ひつ二之れへろん二る

干波ハ熟人波干人付室三弓

屏風風ニ弓非居波屢肉屏又至

庇居弓射不射候庇又至ハ

蘖植ね之和名比古波衣

ひづら田秋之植ね之稻二お

樹秋之蔓も秋之一茎二月を

枇杷夏之もハ多之ひその有也又至

核新之蔓さにあへて之

核一核繫一材ニ核垣二之

核皮核枝木もわうて之

核わ师非人面ニ核赤川ハ面人

核ニ居不の核垣ハ核ニ除核核

糸のひざき作りホヘ面ニ呑一

蒜ウカク韭胡葱アサツキ皆まん

○薺葱蔓ニ。葱也葱也冬也

蔓一蔓ニ水边ニ蔓缓去之れ

蔓垣纹の蔓も打去付字ニ

引板木ニ核わ誠昭引ニ板ニ

弓子茹豆添みホねく蔓目不曉

引字毛ニ蔓強核木双也之御も

即て穿牛牽又白核ホハ乐ニ弓去

偏ニ之一二弓单ニ弓去

。豆ね蔓ニ一二弓和名比止团

廣ハ之ひもるハニセラニ付字ニ弓

ひも子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥一弓一矢而去付テハ不露

。甲乙丙丁戊己庚辛壬癸癸一
亥ニ至おち付テハ不姫又方角の

表は二名不ニ二く極わく付字三ち

緑の姫人佐の守モリ又アミホ不姫

桃喜え桃のきももとく極わく付字二

さ桃ハ夏く亥ハ秋く代の季、又一

ニみ代をミミドモミタキモ又一も

藻一粒之内の多く前も花も夏く

もくづ継モレ不次ホの内ニ非極水

。も小往虫ニ熟く水辺く多と孫ハ秋

。モトハ茶松河の内非水極ニユ一

賜モス一秋ハ茶莖モカホ秋之名妻

緒の茶莖極わ生熟ノ茶ハ夏枯ハモ

守モトウニ人佐く田守宣モホく

モルニ非人田ともる宣とホく

。まリ一まリ一くり。西付字ニ

股一生ホ一役リニ役寒モ

武士人佐くわ士不姫音小てヒ士式く

武者武亦ホ打武度武亦ホ不屈

門経非人門も口あ共々又義く

面ノテハノキモノノセモセモ

也モセモセホニニセハキ極ニモ

瓦四之音四之力訓音うりんハ面志

。瓦參玄彌林中ノ月キ於セモ三

瓦參もまたく意モガリまたのちモ

三字共字を連式よりセ哉之

。瓦子の多ハ就くニ字共式姫

土一かニ一音ニ一震旦ホガリ

名不哉姫力モア序ホニ面ニ

候一候柄一瓦候又モガ名モ加比

六候姜の姫姜ニ玄孫候候モ乞ニ

キ月 やより名奉の付ハ非月

。やのれ 光 夕ホイ面の月とおこ
文字 しま紙 文 争 水茎 邪ア墨
ホニカラ去革の役水茎の役ホイ面之
名の役ハれく。門司寅水辺ノ木屋
又を館つるカヌマニニト居てゆ
七夕まへ時宣^{モジル} 打越と姫^{モヒコ}

法^{モジル} 四^{モジル} 壱^{モジル} 一面^{モジル} 付字三^{モジル}

。法うノハ蔓^{モリ}。法に發^{モリ}

ね^{モリ} 字^{モリ} 蔓^{モリ} 蔓^{モリ} 疾^{モリ} ホニカラ

。襟^{モリ}思^{モリ} わと思ハ^{モリ}式^{モリ} 姪^{モリ}

。襟^{モリ}蔓^{モリ}。わ^{モリ}トの役ホニカラ

のあ^{モリ} 非人。わの^{モリ}脇^{モリ} わ^{モリ} あ^{モリ}

腕^{モリ} 二^{モリ} 痘^{モリ} 一^{モリ} 燒^{モリ} 七^{モリ} 火^{モリ} 二^{モリ}

求^{モリ} 只^{モリ} 一^{モリ} 雨^{モリ} 一^{モリ} 月^{モリ} 二^{モリ} そ^{モリ} と^{モリ} か^{モリ} か^{モリ}

四^{モリ} 求^{モリ} 五^{モリ} 両^{モリ} 伸^{モリ} 东^{モリ} 伸^{モリ} 伸^{モリ}

求子 東起 けあ曲梁塵秘妙不載之
とろき 只一 立ニヌ花葉一^{モリ}
も^{モリ} あ^{モリ} の役^{モリ} が苗^{モリ} せ^{モリ} ト云^{モリ} 役^{モリ} て^{モリ} あ^{モリ}
も^{モリ} す^{モリ} し^{モリ} た^{モリ} あ^{モリ} は^{モリ} す^{モリ} し^{モリ} あ^{モリ}

基^{モト} 井^{モガル} 喝^{モガル} も^{モガル} て^{モガル} き^{モガル} て^{モガル} き^{モガル}

あ^{モガル} 雲^{モガル} 去^{モガル} 满^{モガル} 乎^{モガル} ▲^{モガル} 犬^{モガル} 二^{モガル}

虎^{モガリ} あ^{モガリ} 城^{モガリ} 二^{モガリ} 非^{モガリ} 居^{モガリ}

京^{モム} 八^{モム} 之^{モム} 京^{モム} 二^{モム} 之^{モム} 二^{モム}

脱^{モム} 二^{モム} 二^{モム} 二^{モム} 二^{モム} 二^{モム} 二^{モム}

人^{モム} 二^{モム} は^{モム} た^{モム} 二^{モム} 二^{モム} 二^{モム} 二^{モム}

も^{モム} ぢ^{モム} ぐ^{モム} う^{モム} う^{モム} う^{モム} う^{モム} う^{モム}

も^{モム} ぐ^{モム} 一^{モム} し^{モム} ぎ^{モム} 一^{モム} え^{モム} 一^{モム} え^{モム}

同^{モクダ} 代^{モクダ} 非^{モクダ} 入^{モクダ}

▲^{モクダ} 者^{モクダ} 四^{モクダ}

也
之
二

モヨホス

世

前一書か季ホニ又ニ河の流ニテ
其小浦ノ貯泥原其ナムモ其之
其供其碧其舍其ノ難ニ
大氣季其ナム其季ナム其ノ氣
。河の流ニテ其比打ホニカ
後一又セシトニテ其瘡又ミ
全派面其同也洞ホリ
後二名前ニ水邊之體面付字ニテ
少セキハ而ニ其御不居又タヨリニカ
國二名前ニ人同其秋の裏ハ面ニ
。非居猿山水井礎ニカ付字ニカ
。名本の裏ハ山裏水邊モ名不道

せる 人傷へ立てせこともいづ

脊

一生丸一せ二之背たお膝背三の

腰

一丸腰一共、夏くとぬけも夏く

腰

切セキ 手へ腰筋へ杖へ付字面へ

鶴鶴

一夏名の内二之林へそをき、
へい石面へ應くあう、へい座面へ

芥

一指包手一表く水表付字面へ

脛

一脛加手一肉脛手折脛面

折

折乞紙 芥詰底へ立て

脛

一脛加手一肉脛手折脛面

折

折乞紙 芥詰底へ立て

脛

一脛加手一肉脛手折脛面

巣一巣繩ホニニ 築ニ築ニニ

羽草巣約巣の内ニ一巣繩てみづれ

木の内ニニは居ておこ巣又ハ面

巣目ハオコ。また巣夏ニ

巢多たニ虫乾ニヘ小セねハ面ヘ虫のす新ニ協のす新ニ増のすまニ

法名のすまニ水多ハ夏ニ太多ハ新ニ

す立古するも春ニ移る葉またニ鳥ハ新ニ

非去花原花一夏ニキヤリトモ日

花乞田一ク脚ドニ有終不語ヒニ

○花鉢一夏ニ安花紋の花ホシテ

鉢一枚ハ約ルモ枚ニ洗す。き夏ニ

夏ニ鳥の名咲ても夏ニ非生ニ

筋四ニ脉ニ面去 和名次筋

花鉢一夏ニ安花紋の花ホシテ

○花鉢一夏ニ安花紋の花ホシテ

花鉢一子墨文双底文ホシテ

花鉢一墨壺ホニ墨衣ホニ墨ニ有

花鉢一墨壺墨衣墨の被ホ述情ニ非足ニ

炭一色ニ炭燒炭火の内ニ一

炭取炭燒の内ニ一炭ハ火体ニ有

炭焼タニ非山人炭やくハ山野ニ

炭うり非入炭翁人傳ニ共多ニ

炭灰江名之。炭情新之。飾炭喜之。

九一炭窯山款之。寔字三也。

火、煤、一火体之相、一庚、之妹、掃易、
昌、三、祚、祇、三、生、乾、三、之、於、易、旅、之、

此こそひまへ生れ。越後春の山の花也。
経廉。経廉の共。非山。圓山野也。
経虫林也。⑥。経菜むら。⑦。幼字ニ名
未。字玄也。向也。被也。柏也。二也。
未の松山。名取也。極ね。山野之非水。
未搞也。夏も。みのむ。

放 一放村一材 一急材の上 一
放村植ぬ之非居。放苗就之

松の玄門戸扇木、扇面之非、桂
心の松非桂面之松葉、表之符字二句

志のこゝ = 七の 振袖

スヰ
一尾花一秋化の季、又をとて
不や作ホ形へ度へ太古へとて、度、

。すこぶる焼け刈りを切せの時はひまく
。高枝、落葉林虫木枯らし林枯度を林く

一枝ゆ之新之非水 茄カボハ蔓之
薦送空ホニ之非枝 村字三句
。薦送空鳥食之。空之鳥也、空也。

例二名前二水辺の傍に付字ニモ

。まるか り名不の内ハヨリ一か、付字ニ有
ル。二夏之秋ニテ、納涼スミム。が生
ひ、涼ホニテ、空腹外、余不食。

涼しきた正處の石涼へへ逃だ。

。朝小涼へ始て涼へへゆれ

。二秋もひえろひやうホお(ヒ)

涼を水入ホ二る。衾枯楚萬葉

あぬ氣^{オシ}鷺^{カモ}鴨^{カモ}炭^{タケ}木^キ桔^ギ

涼天一水一心一月一付三月

好^スニ教^ス奇^キ一教^ス奇^キ又^スき^ス

すみひくへてニ^ス約^スもすと^スひえき^ス

歎^ス一す良^ス又^ス萬^{スサ}木^スのす^ス一^ス

約^ス一^ス又^ス一^ス破^ス一^ス洞^ス一^ス一^ス

吸^ス四^ス啜^ス二^ス吸^ス付^スな^ス口^ス吸^スホ^ス

廉^ス一^ス發^ス梳^ス一^ス田^スと^ス鶴^ス一^ス

遠^ス一^スへ^ス遙^ス塔^ス塔^ス面^ス遙^ス方^ス

少^ス八^ス小^ス不^ス姪^スすくまき^ス二^ス

傍^スう^スて四^スこ^スま^スる二^スち^ス増^ス不^ス

す^スき^ス一^スを^ス三^スち^ス又^スす^ス一^ス

する^スう^スて二^スこ^ス未^ス希^スか^スめの終^ス又

枝^ス纏^スホ^スす^スぐ^スも^ス入^スて二^スこ^ス君^スあ^ス

捨^ス字^ス去^ス廻^スニ^スち^ス來^ス門^ス二^スち

述^ス憶^スり^スの捨^スハ面^ス去^ス人^ス

お接^ス邦^ス領^ス使^ス前^ス之^ス日^ス辰^ス日^ス

召^ス合^ス大^ス日^ス接^スお^ス喜^ス日^ス和^ス須^ス未^ス比^ス

。お接^スと^ス併^スハ三^ス秋^ス一^ス月^スて用^スい事^ス有^ス

す^スし^ス七^スち^スも^ス事^ス一^スハ^スれ^ス

する^スう^スも^スあ^ス但^ス上^ス一^ス付^スす^スハ不^ス

す^ス。二^スち^ス去^スし^スて^スして^スホ^スく^ス二^スち

す^ス。渴^スり^スる二^スち^ス去^スふ^スのね^ス不^ス

渴^スり^スる二^スち^ス骨^ス。す^ス勇^スう面^ス

助^ス二^スこ^ス人の名^スある^ス▲健^ス一^ス生^ス就^ス一

居四人すまう四人
四人毛子不歸四人
二二吸二方八人
一すね道一え
二のア一モニ
一すね道一え
不宣スロ
一犁一え
宿猶カラスキ
非難カラスキ
穴窟スボム
すくもぐてニ
廢本ウト三
とくも云泊ニ
すく二集ニ
色字毛毛ニ
居四人すまう四人
四人毛子不歸四人
二二吸二方八人
一すね道一え
二のア一モニ
一すね道一え
不宣スロ
一犁一え
宿猶カラスキ
非難カラスキ
穴窟スボム
すくもぐてニ
廢本ウト三
とくも云泊ニ
すく二集ニ
色字毛毛ニ

千活車

支岐味肴の中

五十九

等女之名

口活うち立

心中ばく

弓猶と懸思

流ひねひ

赴女や郎の酒

揚屋の酒作

領城町の名本

右の分よりを君の立の酒先へ

睦言

私活私國のあり

又腹子

独孙

私乳

私乳

私乳

私乳

庄入

新桃

新桃

矣鳥

二桃

二桃

壺口

獨獨

獨獨

獨獨

坂終

眉の烟

眉の烟

落本

日元の坂

下酒

虫のや

虫のや

將遠

月の唐

月の唐

乳上

立名

立名

格氣

門立

門立

指標

立名

立名

者敵

立名

立名

入舞

立名

立名

女房

立名

立名

支書

立名

立名

あ

立名

立名

寝え

立名

立名

やみ

立名

立名

いも

立名

立名

支被

立名

立名

右の方へゑと大徳と戒とく

色 中 仇

忘 猪 異

姿 佐

犯 勅 けも立よあひと

いともう作とひて多ふ徳くら

附り 非志のう

變 佐

毫 穏 滴 繁 红松

根 佐

緒 指 佐 佐 莖

木 佐

櫟 櫟 佐 佐 佐

は 佐

は 佐 佐 佐 佐

三 佐

奥 指 佐 佐 佐

下 佐

簪 奥 佐 佐 佐

女 佐

名前之女 天之女 早之女

左ハ左の句 あひ

○時令

春

大皞帝 勾芒 卦
蒼天 東君 青陽

正月

大簇律 立春 雨水 中

寅

改旦 新春 年次 年始

歲旦

立春

歲氣

大簇 律新

德新

新年 荷年 改年

歲新

履端 三終 二始 三元

歲代

歲代之年 花之年

歲之年

宿之年 四方之年 ト列之

歲之年

歲之年 ト列之年 ト列之

歲之年

歲之年 元旦 年立初

初元 初歲 初晏 初鶴

幼晏 初鶴

耳目

曆闌 氷の櫻 腹赤熟入

年少

年少

三物連歌 同詠落 年少

年少

年少 元方 門の祚板 鹿窟

年少

年少 幸翁 幸本 蓑盒子 大猿

年少

年少 屢蘋 向友 度漁友 おさづ

年少

年少 门松 立松 いぬつじ いひ上ル

年少

年少 痘蕪 痘渴 掛絹 太箸 齒固

年少

年少 新葵 苦藪 あらと 朝すとくが元日

年少

年少 蓬萊役 クラ 蓬萊 う林 ところ

年少

年少 桂の葉 桂子 桂 うちもみ多び

年少

年少 安比比次 大黑翁 五万罪

年少

年少 安至 用牛 莖 無節 夕苦

年少

年少 桂の葉 傍蔓 菴 お交賣 無想文

年少

年少 安化 万歳樂 亂退 未約

年少

年少 穀門 水後 水のみせ

年少

年少 宝川 穀川 互打 球打 ざく

年少

年少 未素 动きそ始 陽歎始 吉虫始

年少

年少 書初 早始 試毫 試筆 泣袖被

年少

年少 舞初 吹初 以上歳旦之

年少 舞振舞 舞小袖 家三元 初晏店

年少

年少 松報 美絵 店卸 牡虫 懈さら

年少

義定 初高 壱初 実初 松の内
あめの内 まみが せん上歳旦次

▲ 剥掛の神ハタケノミコト 深菴カツマ 天狗窓サモリ 二日
永夏祭エタツマツル 二日 神宣カミマツル 番卸ハラヨレ 日上

初夕 住吉 外杖ウチヅ ⑦ 上郊子の厄上字

小松コブシ ① 日上 痘アヒム 四日 蔗庵キ 日

生身供ナガシタタキ 五日 ⑨ 十四日 天王アメノミコト 六月年越ミツツク 七草セブ ⑩

若菜アガタタヌキ ⑪ 玄く施アヒム そとき施アヒム 施み施アヒム

白馬ホウマ 七日 人日 ⑫ 七月奉天施川神アヒム 七月

箕面シマツナ 篠スズクニ 九月 ⑬ 西家アヒム 十日 乞比次今木

縁石アガタタヌキ ⑭ 一月 内連欵アヒム 十日 武々アヒム 蔗庵キ ⑮

帳経アヒム ⑯ 一月 住吉アヒム 三日 师乞御神アヒム ⑰ 十四日 住吉アヒム 三日

土龍アヒム ⑯ 护アヒム ⑯ 繩引アヒム ⑯ 左義長アヒム ⑯ 十日

爆竹アヒム ⑯ 吉云アヒム ⑯ 小豆粥アヒム ⑯ 乞比次今木

▲ 本朝アヒム ⑯ 本朝アヒム ⑯ 本朝アヒム ⑯ 本朝アヒム ⑯ 本朝アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯ 饭アヒム ⑯

三 以下 佐保賀 永日 遠

再

東風 露力 腹月 才地月 乃也

遊象 長宋 酒簾 故くい 紗ゆるじ

暖雞 水鳩鶴 多鶴 百千鳥

香鯉 鮎 鳜 魷 鈎膾 初朝 吉侵

す蛤 干鰐 目指自魚 海鷺 廉尾

海苔 鳥芋 くじか 鮎葉搗 ④

寝英の花の匂ハ 芹 苦 苛川

梅枝 木柳 木柳 木柳 木柳 木柳

もみじ よめみ 菩薩 防風 独活

山葵 正鳥芋 くじか 鮎葉搗 ⑤

山林の皮 本地の炉 あらま小ありや

まみりぬ まみりぬ

二月 夾鐘律 警鈸 春分

仲暮 陽中 如月 令月

きよしき 桃之月 小桑せ月 神起月

新奠 ①(上丁) 二月 童の行 一日

春日祭 上申 大桑祭 月日 初午 稲荷

水呑祭 ②(年) 摩耶祭 ③(日)

二月次 影徳 ④(日) 芝徳 ⑤(日) 五之徳 ⑥(日)

水紅 ⑦(二月) 遊戲 ⑧(日) 九日堂 ⑨(日) 洗纏會 ⑩(日)

涅槃大會 ⑪(日) 疏そん像 二月の別

さうそん佛 佛のぶ 常念會 ⑫(十五日)

火炬火 ⑬(十日) 絆縁会 ⑭(日) 上彼岸 ⑮(中旬)

比丘八溝 紙薺 ⑯(日) 八溝 ⑯(十九日)

社日 ⑰(中近キ) はなわ ⑱(日) はなわ ⑲(日) 上彼岸 ⑳(三日月)

時正 ⑳(日) 上彌陀 ⑳(日) 云佛 ⑳(日) 地天 ⑳(日) 地天 ⑳(日)

浅石紅茶 ⑳(日) 小石紅茶 ⑳(日) 丹波茶 ⑳(日)

苗代 四葉蔓 水口茶 種井

蝶 テ 蝶 アフ 蜂 アブ 向巢 カワス 蟬 カワス カ 田み
蟻 アリ 穀居虫 カウナ 馬刀 マテ とろこ 雞子トリコ
蒸篠 イカノホリ 出芽り
三月 姑洗 ガシ 清日 セイヒ 谷雨 コロウ
季春 竹秋 チヂク 窓月 カツル 梅月
やよい 楊月 ヒレ 花刃月 ハナヘニツ 五月 カイ
經供天 二月 天王 カミ 宅食 カツク 月食 カツク 杏李の彌月
上巳 三月 元巳 重三上除 桃の湯
桃節能 ヨモギ 柳ろく 茄の縁 茄の縁
籬索 ヒナギ いもをひる飾 カサリ 築す 立籬
蓬條 ヒナギ 母子縁 己の日の後 築合 トリ
曲水 溪盆 ハシボウ 巴字盞 ハシモモ み觸て苑
汐干 住吉加多 沢川土左 蛤ハタグリ 石山祭 ミヤマ
稟津祭 三月 一宗も祭音 あ尾祭 九月
高旅は花舍 十月 やまとひの花 日向

種 ヒメ 亂 ヒタシ 種苗 ヒメ 種ふせら 藍麻 アシナガバ と前
蘭 ラクサン せんまい 蒿蒲 タシボ 公 コ 枝茎 ナ 柄莖 ハラコ
五加木 ウカキ 虎杖 イタドリ さくごづま 薤 ス 蒜 ス
胡葱 アサツキ 韭蒜 ビリ み葱搗 コナキ 蒜搗 ハラチ 蒜搗 ス
菜大根の花 カブツボ 单の花 シダツボ 菜の花 アヒラバ 菜の花 アヒラバ
田畠タケシタ み山と燒ヤ すぐろの落 ス 落 ヨモギ
荻の燒 アシ 苫の角 ハラミ ア 草薙 ス 草薙 ス
蓬搗 ヨモギ 茄 アヒラバ 小いここのむ 茄搗 ス 茄搗 ス
豆梅 ハダモク 初梅 ハ 初花 ハ 花と梅 ハ 接梅 ハ
接木 ツ 向巢 カワス ういよ名
かくをとこむ共 ハシマ 及原 ハシマ 月 ハシマ 月 ハシマ
川鴨 ハシマシ 松庵 ハラミ 子 ハラミ 善菴 ハラミ 善菴子 ハラミス
名の菴 ハラミ 内古菴 ハラミ 子康 ハラミ 康麻の角 ハラミ
幼靈 ハラミ 虫生 ハラミ 桑 ハラミ 桑化虫の歟 ハラミ

大樹 **ツ** 底櫻 **アハサツラ** 鄰鶴 **ツ** 今法 **タツモリ** レウフ
歎冬 **ヤハノキ** 通名のむ 小まむ 小まゆ
連翹 **スハウ** 義枋のむ カらひの事
東桑 **アソ** 仙桑 **サムシヤ** ま桑 **ホク**
九輪 **カニナル** 七多花 **セトハ** 金風花 **コウフ**
多びね **タビニ** けすん 金瓶花 **コボン** 金子花 **コノハ**
る壺 **バリ** 檜葉 **ツバナ** 董 **スミレ**
五形 **ゴケイ** 莖 **ハナ** 蓼 **アザミ** 眉作の花 **ブコグサ**
菖蒲行 **カガハ** 茉莉 **モモ** 菊 **クモリ**
搖うくひ 楊魚 **ヨシ** 楊飼 **ヨシヒ** 摺圓 **ツツヨウ**
蚕 **カ** 彩桑搗 **カスナリ** 柳のえ魚 **ヨシ** 小船 **コトブ** **ア** ようやよ
鶯の巢 **カス** 郭云 **コトブ** **カ** ゆりうのく
鳴の巣 **キス** 鶯の巣 **ウツラ** 鶯の巣あひふ **ウ**
鳴の巣 **キス** 以子鳴 **ヨシ** 雲ふ今鳴了浦鳴 **ウ**
山吹衣 **ウツラ**

みのも ウ 松 楠 のも 厚朴の花
柏のむ 桧のむ 檜 夕 村れのも カ
山菅のむ 檻 檔のむ よゆうの花
萩のむ 山石梨 岩梅 白丁花
櫻のむ 菓子 桂樹 天葵 苗のれ
杜丹 ホ 芝茉 杜若 力 芥子
葵 ア 唐葵 まき 人芥
ひとまわらやく ちやぐ 一ハ 芥
ひふ紫 風車 踊リ 茉 きくのむ
鴨足草 石蓀のむ 菖のむ 茶門茶
菟葵のむ うつぶる あひね ひよを芭
ひよを芭 莖 笋 すの子 菖の菖
茎のは莖 緋草 まつらぎ
麦の秋風 麦翁 ム ざわらぐ
芭蕉原草 は上 郭公 ホ うんとも とし博

通下

再版

蓬川 ひかりの日 (ヒ) 綾波 水す
地被 六日菖蒲 蒙治 葛蒲湯
室參 八日菖蒲 蒙治 葛蒲湯
今參 古社參 住吉伊田六分
伊田參 八分山田 あぐづぎ 夏至日
祇參 祇參 五月夏生 夏至日
惟子 一カタビラ 一ノドガミ 今年竹
竹 苗 早苗 田植 早し女
田植 棟のも (アフナ) 梅 檜のも 檜のも
云極のも 栗のも 合歡のも 天あ尾
山施子のも うろこうのも 五月下り
あ天のも 未央柳 玉枝のも 金沼花
桜子 トコナツ 云ひらの花 日
は葉海引 ひらの花 日
もほけのも 砂聚草のむ カタハミヅサ
スイモノクサ

菖 薹 蓼 蕺 茄子 茄子
菖 薹 蓼 蕺 茄子 茄子
五月 麻賓 律芒種 夏至日
仲夏 茂林 皋月 鶴月
端午 端五 重五 芝虎 蒲人
粽 ⑦ 饰り胄 鬼子の胄 懾飾
わや川 内菖 内菖 内菖
内机 布菖衣 内刀 内刀
水キ招 荘菖 棟也 棟也 棟の佩
茶玉 繁食織 又月の日 又月隨
茱萸 茄子刈 綾波 百草之盛

菖蒲のむ ひのきを 初夏を 菖蒲
やけう草 碎菖 あわ刈 もぐる
菖蒲 アヤメ ももあぶ 蒿みも 刈
藻のた 萍のを 菖の花 川舟
粟秬稗 お麻と 蕎 風豆空豆とい
玄梅 梅梅 梅と清る 梅と干ス
梅しき 小梅の実 杏子 李 批杷
楊梅 生胡桃 妻の実 早松萼
あくあ川 越前 浅川 胡瓜りと瓜
茄子 まなかわ 小豆 醉子 水豆
蛆 地の衣ぬぐ 一蝉 一わ蛭 水蛭
あさの桑 は桑 桑の子うるの子
ぬけむ 黒鷺 はなえとか 日鳩
学の者と入 座の児 独鷗 一默鷗
照射 一ホクシ 五月圓つる 月を
火串

向之 楠のゑ 五月雨
六月 林瀧律 小暑 大暑中
季夏 瓜朝 旦月 遷月
三月 凤仙月 吾祚月 常夏月
冰簾と経よ日 氷室 猶蔓ノリ 一日
富士端 一日と 一ト始離 六月三日
紙薹舍 七日と 丹山絆 丹鳳流 七日
巖蕪糸 十青 纏生藤糸 一四
热田宗古日 滌皆糸 十青 芦の御典 一上
森定喰十青 いやみし十青 一六日
志後茶十七日 美波涼 二十青 織工行功 一青
内毛洗清十九日 一九日と 仁納涼 上波多糸 十青
度摩内拔 大坂 竹岩子日拔 一四
天波内拔 大坂 竹岩子日拔 一四
南湯茶 一六日 六月旅 一五日 住吉内拔 一四
かり 形代 一六日 桜内拔

凡紫	虎の毛	蜀	皮
はくひの葉	蜀	蜀の毛	皮
蜀の毛	蜀の毛	枝の毛	蜀の毛
蓬川	蓬刈	蓬刈	蓬刈
麻	① 楊麻	葛の糸	かむし
蓑	蓑の子	青番椒	アラタウカラ
瓜	高素	白梵天	ホウツキ
林檎	新干瓢	白梵天	ホウツキ
納豆仕込	ひい不作	熟	カララ
破	鶴实	熟	カララ
耳湯	同ひく	熟	カララ
冰の粉	索	熟	カララ
门饭	水	熟	カララ
冲脣	砂糖水	熟	カララ
竹奴	葛水	熟	カララ
脚	水饭	熟	カララ
香薷散	心	熟	カララ
土用干	方	熟	カララ
虫干	方	熟	カララ
虫拂	方	熟	カララ

川社	りの枝の枝	あくよこの枝	夕枝
け枝川	ちひま	麦みそ	茅のぬ
麻のえ流	麦休ふ	麥休	鴨涼
彦涼	夙うり。	まき峯	雲の峯
白五	極暑	日巻	炎天
猶	猶	日巻	三伏
井戸ぐそし井	水うけ合	紅葉	勝負
井戸ぐそし井	水うけ合	紅葉	勝負
水母れ	ひだり夜	日巻	日汲
火うち虫	毛虫	四よ納	持羽
穴螺	様の脱	持羽	鰐浦
瓦瓦口紅	ひわき	ひだり	ヒドリ
射干	ひわき	ひだり	ヒドリ
冰芙蓉	里モダカ	蠍の脱	虫様
蓮	益	蟬の法	コガネムシ
タヌ	赤草	竹のはね	サクヤシ
(八)	凌霄	赤草	サクヤシ
旋花	凌霄	凌霄	サクヤシ
鞠のも	凌霄	凌霄	サクヤシ

掛香

五十一

再版

▲夏苦て夏涼キ 夏の別
夏小暑キ 夏とうか夏を海る
夏の涼夏とて夏と送夏果る
秋と涼 秋近キ 秋と約

秋

晏天 白藏 金商

七月

夷則 律立秋吉 處暑中

孟秋

桐秋 相月

蘭月

五月

女糸七月 風月

六月

新小涼一 紗て涼一

七月

立秋 今初の秋 紗秋

八月

立秋 一秋の秋 一秋

九月

立秋 一秋の秋 一秋

十月

立秋 一秋の秋 一秋

十一月

立秋 一秋の秋 一秋

十二月

立秋 一秋の秋 一秋

正月

立春 一春の春 一春

二月

立春 一春の春 一春

三月

立春 一春の春 一春

四月

立春 一春の春 一春

五月

立春 一春の春 一春

六月

立春 一春の春 一春

七月

立春 一春の春 一春

八月

立春 一春の春 一春

九月

立春 一春の春 一春

十月

立春 一春の春 一春

十一月

立春 一春の春 一春

再版

盆 モウラ 雪見盆 シキモウラ 月桃 タケモ 妻奈 チネ

板経掛奈麁 タケモ 麻子 マコ 篠尾芋 スズカイモ

水の盆 モウラ 直供 タツゴ 松至松 マツシマツ 仄瓜 ハラガ 苏子

まち林 マチリ 桃 モモ 烈 ハラハラ ば甚のそ ハシナソ あり元實

矣 モモ 然 モモ とすれひを モモ 灯籠 タケモ 燃 タケモ カリコ

中元十五日 イキミタニ 中元十五日 イキミタニ 灯籠 タケモ 跳 タカモ

水灯籠 タケモ 送り火 タケモ 大之まの火 タケモ

名居火 タケモ お取の火 タケモ あ長妙は火 タケモ ね鳴

額目踊ね鳴 タケモ 灯籠 タケモ せら猩々源舞 タケモ

端六ノ糸十日 タケモ ほど入りセ タケモ ほの山が十日

春の珊瑚 タケモ 朧宏火 タケモ 大四日比奈祭 タケモ

▲ セツ ひやう タケモ 風 タケモ 園 タケモ

持 タケモ 门菜 タケモ 花火 タケモ 稲善 タケモ 燃采 タケモ

田畠の虫送り タケモ 次麦 タケモ 姥 タケモ あつ麦 タケモ

柏 タケモ 樹 タケモ 檜 タケモ 檜 タケモ 檜 タケモ 柏 タケモ

観音茶 タケモ 茶 タケモ 茶 タケモ 茶 タケモ 茶 タケモ

鳳仙花 タケモ 益母草 タケモ 旋覆花 タケモ 重葉

やいとむ タケモ 曼珠沙花 タケモ 喜みの花 タケモ 日虫

本槿 タケモ 茄荷 タケモ のも タケモ うえのむ タケモ 薔薇 タケモ 仁

蒲 タケモ 葡萄 タケモ 世 タケモ 葡萄 タケモ 朝の実 タケモ 本山の実

法桐 タケモ 浩取 タケモ 苗の木の花 タケモ きく豆

タムの実 タケモ 鞍葉 タケモ 西瓜 タケモ あく

車 タケモ 粟の種 タケモ 稲穀の玄 タケモ 宿のむ

櫻の花 タケモ 冬櫻 タケモ 二百十日 タケモ 寒の山別

雪 タケモ あく タケモ 初寒 タケモ 猪 タケモ 猪 タケモ

董 タケモ 蟑 タケモ 蝉 タケモ 一 タケモ 秋 タケモ は虫

亨 タケモ 千 タケモ 立田 タケモ 眺 タケモ 子秋樂 タケモ 律 タケモ

キ タケモ 痘 タケモ ツ タケモ 少 タケモ みひ タケモ 知 タケモ

三

此以下

立田眺

子秋樂

律 タケモ

月の霜 高冰 月の桂の花実 紅葉
照月 次 新月 法月 一月 〇

椎牛 推の梨 桃 一 十秋 深秋

落ス 菖蒲の葉 落菖蒲 落子葉

落芭蕉 芭蕉 美玉草 花壇 茉莉

也のむ 茉莉也 厚葉紅葉也

茅苔 すみれ苔 太子草 荻反

荳の豆 鬼灯 新番椒 着たゞ

布瓜 南瓜 冬瓜 薑 牛房

芋 苦莢 茄子 零繁子 菓

柿力 喜柿 本柿 久柿 新柿

古くい木 楠舟 日刈 日下 日立

梅 ① 田の木 夕田の彦 小田守

名もどり 咲子 咲羊 燃志め

流水 ドヤ板 康馨 新錦 新泥

本豆子 古也 一麻 レ虫 ピ

藻小鉢虫のあ みどる 三の窓のあ

小鳩 夕 鳴 レ 蘭 ウ 百舌鳥 モ

鶴衣 鰯 仙人 紗 簪 小豆子

江船 仙人 簪 仙人 小鶴 仙人

組やる 鳴吹 お接 ①

八月 南呂 律 白露 吉 秋分 中

仲秋 竹春 牡月 桂月

立秋 秋風月 月見月 七月月

八朔 たのめ祝 田ね実 緑蕉

繪行坐 三村糸 二日 媚天神糸 四日

小笠索 四百絲 安北音 韶和琴糸 十吉

司石十日 诗霄 十吉 小匣月 月上

名月 十音 名月 千月 日 あすひの月 日

月丸日 ひの月 日 芋名月 日 三五の表

モチツヨイ 金夕日

地口玄音者

李清空者

八枝參十五日箱清參十六日放生會十音

蔓太臣參十八日

泊逐コ

少參十八日

素名參十八日

西虎參ナ井

菩薩參ホサ

秋社成ノ月迎ア

初龜カニ

初波カニ

次一

やまとサ

磯キ

志ごろ打

拂衣タマ

衣打タマ

拂衣タマ

名木の愛シ

那山シ

杜丹シ

初紅參シ

梅紅參シ

本美落シ

木犀花モクセイ

桂モク

橘モク

櫻物モクモノ

狼牙モクヤ

かづらモクヤ

鷗モク

薺モク

はあ見モク

花地モクジ

宇治モクジ

藤モクジ

尾花モクジ

尾モクジ

花モクジ

蜀モク

蜀モク

蜀モク

薺モク

薺モク

薺モク

薺モク

薺モク

薺モク

石櫟モク

石櫟モク

石櫟モク

通モク

通モク

通モク

稻モク

稻モク

稻モク

月垣モク

月垣モク

月垣モク

栗モク

栗モク

栗モク

小薺モク

小薺モク

小薺モク

厚力モク

厚力モク

厚力モク

絆モク

絆モク

絆モク

山雀モク

山雀モク

山雀モク

翡翠モク

翡翠モク

翡翠モク

ひくもモク

ひくもモク

ひくもモク

本元モク

本元モク

本元モク

通
を母モトの実 梅檀の実 桐波の実

核カキの実 桧カシの実

椎シの実

楓カトリの実

栗カエデの実

櫟カシの実

柏シの実

楓カエデの実

松カシの実

柏シの実

柏シの実

冬

上天カミヤウ元英カミエイ羽音カミノブ

十月

應鐘カミヤウ律カミボツ

立冬カミタヂ

小雪カミコク

中雪カミチホ

孟冬

折木カミボツ

陽月カミヨ

良月カミヨウ

小春

立春カミタヂ

初霜月カミシマツ

秋月カミツキ

神送カミソウ

秋猿カミツル

秋鶯カミツバ

秋鷺カミツル

真福カミフク

真會カミガタ

真合カミガタ

真戒カミカイ

真忌カミカイ

真比カミヒ

真戒カミカイ

真戒カミカイ

大社カミタヂ

神集カミシヤウ

神在カミザイ

神造カミサウ

神造カミサウ

かみ越

百宗

茶口切

初霜初菊消

时雨

初时雨

初雪

初雪

初雪消

初冰

初冰消

冬牡丹

大茎

大茎のむ

寒菜

八分のも

茶のも

山茶花

山茶花

ゆう花

梨椎杏梅

寒梅

枇杷のも

本抜

草の子唱

三

三冬

一雪

雪

ニ

氷

ニ

靈

炭

ス

かくい

炭取

助炭

炉

いろマ

火爐

火爐

火爐

轆轤

火桶

火桶

火桶

縑帽子

孫子

紙子

紙子

紙子

暁月

一

玄キ

サ

芸

枯芦

枯柳

木の葉

山茶葉

枯葉

枯葉

力

名前名本

名前

名前

宿

宿

宿

宿

綱代

ア

竹弓

生海箭

生海箭

十月

黄鐘律

大雪
冬至中

仲冬

周正

復月
暢月

十一月

大雪

冬至中

十二月

雪降月

秋月
雪月

宗像祭 上卯 吹革祭 八日也 忌十三日

子祭 甲子子卯心日上三宿酉の事 中酉
カミオキナガニトキノサツニシテ

髮屋音 滂若 帷袖 日暮御天香
トヨノアカリトモギタマハタケミヅロモ

日陰のうづ 日陰の祭 沖承
カゲカゲノウヅカゲノサツカグチヨ

小祭 かも 大師達 菩提祭
カゲカゲノサツカモダシダラカツタヒ

掛名 日上 喜慶役 旅大合報恩清
カケカケノナミヒヨウルタヒヤウルカツタヒ

宇多御祭 里神承 丹火燒
ウタモツサツカツリシムシカツタヒタケ

▲かき豆持 日魚見せ 豆豆持
カキモツカツシモツシモツシモツシモツ

唐妻 践叩 あらゆる 薙豆身
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

薩摩 あ腐水 水桶 瓶水
サツマカツモツカツモツカツモツカツモツ

雪車 機 雪車 德妻 杜夫魚
スツリカツリカツリカツリカツリカツリ

船 爪若舟 姥若舟 彩若妻
ブリカツモツカツモツカツモツカツモツ

新干菜 まき干菜 木山檍
シキニシキニシキニシキニシキニシキニシキニ

十二月 大呂律 小寒 吉 大寒 中
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

季冬 殷正 臘月 極月
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

ありん 二冬月 榆初月 朧月
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

獵梅 早梅 不接 空竹子 玄冥
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

このこの御れ 八日御れ 煤擣
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

絢味毛 あひて納 茶喰 鹿くり
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

豆腐 あふくと水らうん 空さし
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

を作 空垢詠 空麦 声はり
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

膾 日中近キ 佛 名十九日
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

大灯忌 大燈も年内立吉 新燈夜
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

豆ふれ お豆 滅解 息か
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

摸枕 因札 厄そひ 厄が
カツモツカツモツカツモツカツモツカツモツカツモツ

ササギの絵の掛軸

カカリ
カカリ
カカリ

歲暮 歲末 別歲 守歲 分歲
年尾 年夜 晚年 除年 終年

おもてのまゝに、お次の方へ

麗の家に登る「春」の月
札納、衣拭り年忘れ門松のそ
名喜トうさぎ先生ノ賀年

餅丸小晦
大三十九
亥季
卯未

の歌の書の名あ年は

ニキテツリ
ハテ
タカミ
トナ
ニキテツリ
タカミ
トナ

是れを一毫も誤ら
ずと爲めに

右の小本をその公事と申革の

行幸八公事相元歲時記

いふて氣を失ひやうにせん

△ 附リ 郎
桂園牡丹苑あかね
算力弘名

小せあの花雪やま 花紅葉蓮華

親の云花(ハ) 松竹の萬葉(カ) 楠雲(コ)
云の承(ミーリ) サカキ カニ
神(サカキ) カニ
白(シラ) ヒラ
生(ヒラ) ヒラ
久(ヒラ) ヒラ
久(ヒラ) ヒラ

カツラ
ムクラ
コナ
モモ
スケ
モモ

儀事不蓮せりも草子は
タカヤス

喜樂 桃笛 美妙
心醉 遊遊 井ノコノモ
耕田 田代
村雨 ムラニ
清冰 レイ

水 ミシ 虹 イモカリ 電 ライ 雷 ヒテリ 早 サイハラ 月 ヒマツ 月 ヒマツ 夜 ヒヤウ

改
新

桜の葉 杜丹芳 茶の近年の私名
小せわの花雪 紫 花紅葉董 姿

松竹の花 ハ 桜壺 コ

芋 薺 蕃 蘿 芦 茄子

儀事系 蓬は うり草 美濃
タカヤス

おまこみ
木苗
手筋
耕
田
井ノコノモ
ムラサキ
レ
レ
清冰

水陸軍配圖
舞扇
礼扇

虫 電 雷 畏 慄 星 月 夜

四方のえあひを 神龜 独心の月

前後 前後 正行 忽良 干汝

極 胡桃 松子 麻の実 から東

麦わ 麦饭 素菜 ホレナ 干菜 みけ

大角豆 サヤ豆 菜卸 炭消 ホラカ

瓢ひ葉 ホコロ 抽下 楠干 楠漆

蛤 鮎 蕃 蝶 繩 五虫 蓼虫

蝶の巣 鰐 薩雄 猪の侵虎の鳴子

や齧る あん鷄 鴨嘴 嘴鉢 小弓

山弓 象鼻 都弓 海螺 鷦鷯

大弓の巣 略のね登 孫之 病の汗

猪 きよ 湾うる 湾まゆ 布 藏子 夜惡

大古弓 墓年う 倭儡師 小縁

離掛弓 掛れり 年次 年波

右のふ 新く季 不可見

○古意

切字の事

和欽^ミと名目を以テ^{シテ}て拂ひ拂ひ拂ひ拂ひ

道を晴ひる年の深きるるへ

が りく ら た ち あ そ

又 や ひ 何 彩 噴

や か つ ん 有 リ 七

折^ハのす 乎^ハ 乎^ハ 乎^ハ

向^ハ 乎^ハ 乎^ハ 乎^ハ

乞^ハ け ら う う う う

いざ いざ いづ いづ いづ いづ

いづ いづ いづ いづ いづ いづ

下^ハのす 無^ハ け^ハ せ^ハ て^ハ ね^ハ

め れ あ よ そ け て ね へ

但 不^ハぬ と^ハの 一^ハふ^ハの え

たる あり リる める ゆう
えん えき えり おれ切字オレカタジ あいじ
又欲の文字ともつて落札すゞしれ
やトかトハふとあんじも皆切字カタジ
石の玉空とて味とて空也とすべ
や字もきてへゑりエリ 二字切三字切
分の中二押ハギ 抱の字と置くにけか
太白タヒ と白ヒ 三點切とてすり絞り
続スル てあひてふとさくそ 空也と仕立る
使スル てひかヒカ ひ又空てと必切字
蓋カバ は放空ハラフウ 古人の空也アラシ
皆ハモニ けてふと空ハム 自我ハム ふう死ハムシ 人々の
あめとサシラクコシタ 师說シセツ あれハム 国ハム

り教の事

春秋ハ三勺が丘よりニ方少て不接

夏至ハ 一夕か三夕と之 但紙ふ
多る日月の季と出ス
忘のカ るかニもとえ必一夕ふて
於べづじ 拳匁 一束 紙
紙 祓 美 述懐 旅旅 夜
居取 山粋 水墨 一束 三束と之
祓 福少^シ 祓用の少^シ 犹^シ 三束
と後く^シをとあづ^シと^シ精^シと
通^シす 心^シへもり^シと^シ少^シと^シ捨^シ
人偏^シ 人名从之名所 国名从之 藝能
天象 陰^シ 晴^シ 附^シ 植^シ
飲食 衣^シ 食^シ 一束 二束と之
風^シ 雨^シ少^シ 一束 二束と之

人傷人名从

人傷人名从之名術國名从之降劫

通下

卷二

再
本

得有也
歸る二字の火
風
氣と火を
かりて之を

月と星とかりりとも光也
木と草と竹とカリリとも植わ
虫と鳥と歎とカリリともあきあ
右のふ二もまえ折りても又内ド

日字 日生教 日植也 日財小
夜分 衣類 达懷 旅紳 居取

神祇 祀教 焉 王常

古のふ三の玄へ折りへても又ノリ
口字へ付るも略々訓意がれの大抵
二方玄牀と通ひて三方玄壁へ本を
ホ一方柱わうねべる玄壁之類べ
又虚押^{キヨアラ}後^{アフタ}心^ハ藝^{ゲイ}の字ハモダと通
也ども训意うて二方玄は木の言語

門とえてかべ
爰ば字よ三弓吉の字え
月 松 竹 田 夢 涸 同季
枕 衣 舟 烛 けふ各五匁去
折面とくても五匁まで月と考え
とひ面うぐての事と月面と月二せん
又云月次の月ハけ定めあづけ
右十一色の火は拂拂の上の光を許めて
火を去るゆゑまわるゆゑと字をかべて
衣季や竹田の舟拂夢泪

古川山民が入て家教師のあつら筆
はあそりて落の字と五を入る
ことと歎みて字を之新式今其奥也
行家御法師玄元粗^{ホリ}記金と云々^{ハシ}
もれも今來ゆる事多矣

舟かとひきふとの飾りんを
絹の字に古の字をかへと今あは
ほじをふへとえへ

セラムハアヨリ一株のまゝが面と
久てハ字をかへ一椎本氏の字と欲の
セラムのわと能満也ハカム去する
是ハ折つてもカム去く連セラム去す
能満もセラムをすと思ふがはは連
ベ一丸連歎而婦よわと統て漬みて
セラム免一うる候りん面とくとへ
三るもす一先新或の心ふてモ極至歎
西トテキシテキシテキシテキシテキシテ
擾トテキシテキシテキシテキシテキシテ
云セラム女とせきらうへのあふての
半くおくれてハニキヌ而代取之云

又貞姫の泥湯、すの内

毛欲みて面ぞうとさくよみ
ソレムアヘハセラム一
欲の心もめそ面ものわとま面を
字玄みがひきの格式、徳音貞姫は立園
の本主、當時推本氏の名前を玄之
世ふ僻とすがる人ハ無事と識
もの必承と終べ一
賦ねの本

花玄壺の発も、まのまハ坂べうじ。
或ハ壺の字とく内、蛸何と、何袖と
坂べー。何皿とハ坂べうじむ、壺トニ
放之、又柄何とハ坂べうじ。一字處於
二字互考三字中略ホハウ、互考除扁
添扁傍音ホハ字れ。常の泥湯ニ

試あれ事ハ梯ハシニアガル附ハタケ行ハシム也
泥濘ミダラ之速歌ハヤシガベ

試ハシムの文字ハシニアガル三ミモト梯ハシフ

發ハシム也振ハシム而ハシム之ハシリ

太ハシム加ハシム師ハシムのハシ古ハシムもハシムかハシムる
かハシムきハシムとハシム考ハシムあハシムある
トハシムのハシもハシムとハシムよハシムのハシ城ハシムおハシムの
字ハシムのハシもハシムハハシム三ミをハシム梯ハシム之ハシ下ハシムのハシの
表ハシムハハシムのハシ内ハシムのハシ字ハシムのハシ想ハシムくハシム歌ハシムのハシ字ハシムを
五ハシムもハシム才ハシムニアガル字ハシムとハシム五ハシムもハシムれハシム裏ハシム、
かハシムりハシム故ハシムかハシム三ミうハシム未ハシムひハシムふハシム及ハシムをハシムだ
發ハシム也振ハシムとハシム梯ハシムハハシム字ハシムにハシム梯ハシムと
云ハシム來ハシム上ハシムのハシのハシ才ハシムニアガル小ハシム冠ハシムてハシム後ハシム宮ハシム
殿ハシムとハシム並ハシムるハシム例ハシムのハシ綱ハシムのハシ飾ハシムりハシムるハシムべ
又ハシム泥ミダラのハシ字ハシム去ハシムへハシム三ミもハシムいハシムばハシム四ヨリ字ハシムはハシム表ハシム

ハハシムのハシ梯ハシムとハシム作ハシム心ハシムぬハシムてハシム候ハシムるハシム
とハシムこハシムそハシムもハシム板ハシムとハシムこハシムもハシム二ミるハシム原ハシム
をハシム下ハシム隣ハシムもハシムあハシムるハシム庭ハシムとハシム
是ハシムもハシム同ハシム作ハシムえハシム上ハシム下ハシムとハシム小ハシム大ハシム下ハシム、
上ハシムのハシハハシム二ミるハシム左ハシムとハシム右ハシム集ハシムうハシム下ハシムのハシるハシムハ
本ハシムトハシムトハシム陰ハシムトハシムよハシムうハシムてハシム二ミるハシム左ハシムをハシム云ハシムるハシム
弓ハシムのハシ飾ハシム之ハシ城ハシムのハシ名ハシム字ハシムトハシム歌ハシムうハシムべ
又ハシム泥ミダラのハシ字ハシム去ハシムへハシム三ミもハシムいハシムばハシム四ヨリ字ハシムはハシム表ハシム

ハハシムのハシ梯ハシムとハシム作ハシム心ハシムぬハシムてハシム候ハシムるハシム
とハシムこハシムそハシムもハシム板ハシムとハシムこハシムもハシム二ミるハシム原ハシム
をハシム下ハシム隣ハシムもハシムあハシムるハシム庭ハシムとハシム
是ハシムもハシム同ハシム作ハシムえハシム上ハシム下ハシムとハシム小ハシム大ハシム下ハシム、
上ハシムのハシハハシム二ミるハシム左ハシムとハシム右ハシム集ハシムうハシム下ハシムのハシるハシムハ
本ハシムトハシムトハシム陰ハシムトハシムよハシムうハシムてハシム二ミるハシム左ハシムをハシム云ハシムるハシム
弓ハシムのハシ飾ハシム之ハシ城ハシムのハシ名ハシム字ハシムトハシム歌ハシムうハシムべ
又ハシム泥ミダラのハシ字ハシム去ハシムへハシム三ミもハシムいハシムばハシム四ヨリ字ハシムはハシム表ハシム

つあくを核小あくぬ人小傳(ぬき)
却て道と城の害をこうう又豈
不爲之従て名もハ文字と入組と
字ふて通^{カニ}て通^{カニ}て通^{カニ}のかとせみへ
たとひ奥多と極りぬじたあむの人
とそ是故ある余何ゆふるは核が
ありきのまこととあるがんばじゆ
付属小字をえ作るも又は城のさを
心と対小おもひすこ

司捨の手の事)

連欽小川西そとと

訛アラシかも二十年末ハせん

怪々ハヤシな佐吳丸せふ火車罪科
天災不外ふ考考考考
近代の世人の脚名寔名も

それとまきらひの上ふ忌
四民共今ノ所り人の名をもてん
あくの極く我輩の業
定うてする志の匂ふ氣と付^ナよ
いとひの未席退幕の附
紳船と欽名の傍接わぬれ
刺志と鳥と津く(きく
右六首の放宣の手^ス裁^ス)

這うよやきの酒かきく後

薩の一^レの麻の遠声

挂干山鹿の名ふタケウ
秋そり衣^スのと柳

絶とそよはるたと名前あらす
舎の消る事とさうりし

太^ス連^スお載^ス之役^スお^スか^スか^スべー

祝言ふ^{伊弉}辭^キ近いゆり飽^アいとま

あつやうひ照^{タマ}火^{タマ}縦^{タマ}横^{タマ}

ほの御猿の^ノ名又^{アフ}かつる

やとめ鳥み近^{アハ}しの蓬

新宅ふくく火の^ノ音^{アハ}新^{アハ}火

みき火^{モモ}前^{タマ}御^{タマ}器^{タマ}

善^{モモ}想^{アハ}火^{アハ}後^{アハ}人^{アハ}夢^{アハ}え

陈^{アハ}火^{アハ}負^{アハ}の^ノ前^{アハ}りと^{アハ}る

追^{アハ}若^{アハ}沉^{アハ}落^{アハ}すよ

引^{アハ}被^{アハ}火^{アハ}ふ^{アハ}り^{アハ}叶^{アハ}り^{アハ}と^{アハ}る

元^{アハ}銀^{アハ}火^{アハ}も^{アハ}じ^{アハ}元^{アハ}山^{アハ}火^{アハ}月^{アハ}

舟^{アハ}火^{アハ}也^{アハ}セ^{アハ}火^{アハ}也^{アハ}と^{アハ}れ

字^{アハ}記^{アハ}訓^{アハ}者^{アハ}の^{アハ}よ

字^{アハ}ふ^{アハ}俗^{アハ}字^{アハ}と^{アハ}り^{アハ}泊^{アハ}火^{アハ}泊^{アハ}火^{アハ}り^{アハ}や^{アハ}す^{アハ}ま

あ^{アハ}り^{アハ}を^{アハ}き^{アハ}ク^{アハ}く^{アハ}月^{アハ}火^{アハ}引^{アハ}き^{アハ}る^{アハ}よ

漢^{アハ}か^{アハ}也^{アハ}也^{アハ}用^{アハ}の^{アハ}益^{アハ}と^{アハ}リ^{アハ}他^{アハ}の^{アハ}後^{アハ}ぬ

匠^{アハ}か^{アハ}也^{アハ}也^{アハ}第^{アハ}の^{アハ}損^{アハ}く

机^{カイ}ハ^{アハ}川^{アハ}の^{アハ}付^{アハ}遠^{アハ}之^{アハ}解^{アハ}向^{アハ}教^{アハ}の^{アハ}訓^{アハ}て

鑄^{カイコ}軀^{カイコ}体^{カイコ}双^{カイコ}國^{カイコ}豊^{カイコ}俗^{カイコ}字^{カイコ}之^{カイコ}

け^{アハ}書^{アハ}字^{アハ}多^{アハ}一^{アハ}署^{アハ}之^{アハ}後^{アハ}學^{アハ}之^{アハ}之^{アハ}名^{アハ}と^{アハ}ス^{アハ}

沽^{アハ}の^{アハ}士^{アハ}也^{アハ}也^{アハ}俗^{アハ}の^{アハ}據^{アハ}之^{アハ}字^{アハ}爲^{アハ}考^{アハ}

沽^{アハ}文^{アハ}之^{アハ}也^{アハ}也^{アハ}俗^{アハ}也^{アハ}之^{アハ}以^{アハ}論^{アハ}と^{アハ}之^{アハ}

沽^{アハ}之^{アハ}骨^{アハ}之^{アハ}と^{アハ}仕^{アハ}考^{アハ}之^{アハ}も^{アハ}あ^{アハ}れ^{アハ}い^{アハ}と^{アハ}正^{アハ}字^{アハ}と^{アハ}

アル^{アハ}ま^{アハ}あ^{アハ}れ^{アハ}は^{アハ}宣^{アハ}ふ^{アハ}也^{アハ}べ^{アハ}ー

燒^{ヤク}マ^{アハ}火^{アハ}川^{アハ}之^{アハ}言^{アハ}沽^{アハ}門^{アハ}焚^{アハ}之^{アハ}と^{アハ}後^{アハ}て

云^{アハ}う^{アハ}至^{アハ}る^{アハ}い^{アハ}志^{アハ}也^{アハ}も^{アハ}あ^{アハ}そ^{アハ}う^{アハ}る^{アハ}こ

燒^{ヤク}の^{アハ}川^{アハ}と^{アハ}ほ^{アハ}か^{アハ}わ^{アハ}に^{アハ}他^{アハ}の^{アハ}流^{アハ}之^{アハ}

統^{アハ}云^{アハ}は^{アハ}師^{アハ}共^{アハ}入^{アハ}声^{アハ}の^{アハ}よ^{アハ}る^{アハ}と^{アハ}う^{アハ}づ^{アハ}

ちう。やうと云ふありう不ア改之

ハ中元の豆。多の豆。又帳面。ル帳本。多を豆
ウシ。も音多。ル。レ。二。去帳面。牒。

と云々。カリ帳。も字。近。史籍。世。方。統
除。ヨ。ウ。レ。帳。ヒ。五。帳。の。レ。ト。ス。ベ。一

甲

和名。与路比。积名。鱗甲。貝虫。の。甲。

まれ魚の鱗。と表する字訓。胄。盔

加布度。說文。首鎧。け。訓。ぬ。ち。う。て。え。一

人。も多。一。支那。の。手。道。と。害。エ。て。改。れ

聖。モチ。望。ヅ。モツチトイ。ス。テ。ニ。巴。

先。ホ。ハ。多。多。少。て。珍。め。ど。も。珍。め。又。別

吟。の。ミ。ト。キ。不。及。但。己。の。訓。ほ。ら。の。と

か。の。ミ。不。該。先。同。字。別。收。之。壁。ハ。風。ホ。ハ

風。エ。ゾ。不。該。ク。ナ。ト。ク。一。目。の。字。ち。許。

教。詔。ガ。リ。テ。同。字。同。セ。ウ。ル。ト。不。該。道。ト

海。ハ。別。字。別。收。之。ル。ト。ミ。ル。ト。陰。累

お。字。内。ヒ。ニ。ル。ト。皆。各。と。言。諸。門。歩。之

博。ヒ。の。ク。ル。少。び。き。と。名。あ。み。て。少。ク。少

少。ホ。ミ。ト。ク。お。境。小。羽。ク。放。う。レ。し

海。ホ。タ。ク。魚。ウ。ラ。沫。ア。ハ。豚。ア。ラ。甲。カ。フ

太。ハ。お。名。あ。訓。之。茨。理。生。ウ。ニ。通。者。之

押。射。撓。公。辨。猶。故。

是。ホ。の。れ。い。カ。ア。リ。セ。の。方。が。ま。と。付。置。之

饭。イ。井。仁。彭。二。年。杭。弁。椎。笄。帶。サ。イ。三

貝。カ。ヒ。鯛。タ。ヒ。鯨。ク。ラ。鰐。ウ。コ。榧。カ。ヘ

菖。オ。ッ。豆。オ。ク。槐。ハ。薄。モ。ラ。男。オ。ト。コ

寡。ヤ。モ。ヌ。水。鷄。ク。リ。サ。神。難。ヒ。モ。ロ。ギ。

以上十字

言。浩。門。和。名。付。と。片。ク。る。付。と。と。す。う

片。ク。る。付。ヒ。色。俗。の。考。へ。税。と。も。是。一

凱。の。名。の。由。へ。和。名。付。と。以。ま。べ。一

通下

ト。牛。七。

角。反。

うかほうひの書多ナルレ、ゆづて不載え
すへて、うみ、五十韵の、亮、傷と云べ
ち、言、辯門の中の、信、字、ある遠、あ、の、をと
そ、と、出、て、處、か、も、も、あ、の、す、へ、り
文、龜、今、索、の、あ、う、ま、ん、び、き、と、達
枝、よ、先、水、足、月、歎、か、の、く、と、仰、の、字
上、の、字、ゆ、な、お、の、敷、ふ、き、う、と、近、む、の
御、の、ゆ、う、り、を、小、す、う、ゆ、か、う、す、め、だ、り
そ、と、闇、サラク、とい、ぐ、も、闇、モダレ、ゆ、ぐ、く、ぬ、の、而、儀
ま、の、ま、じ、は、と、思、へ、あ、れ、の、事、も、能、の
一、並、み、て、あ、ゆ、の、氣、ヒ、よ、び、き、の、れ
氣、あ、氣、式、ハ、末、代、不、背、ハ、代、
代、々、の、家、直、モ、ゆ、く、の、氣、ふ、き、う、と、や、
の、かり、つ、め、り、有、る、す、と、ア、ミ、ミ、ト、所、謂
彰、式、一、充、三、の、を、と、全、案、四、四、と

ヘトメ ヒトミ 共唇音ふてをス
ラリルレロハ 和訓少て上たれ又
アオハトニヒシヌラモ肺少てハト
アツミトノ用みてトモムクニ
青アラキアラク けふる將列之
キトノト牙音ヘイトウハ喉音少て牙音
色レハ齒音少て牙腔 將斯
歎ウワ 宮音のうきひといとくモウヘ
又讃ナニフルビヒフヘボ 潛る本アヤニ
和名宇惠又カ葉ウニ宇崩ヘワイウニ
或云飢ウエみて次ウトシテモガサエヨ
絶タヘ 摭シヒキルハはひふ(は)
歎飢の別是少て如トウヨト喉音
將列少て脣本紀少て引及て矣ス

中て博之一庵四句の在ると今ひき
致ふに二る少くして感之泥湯ノ大門ノ
又此拿小ハ東式とリて向の連欣を
別として連城の好士世の風氣小
さして又窮之於戲自處の芳情^{アマシ}
まう又自處の自不遠のむて害あり
離鄙^{ヒナ}の例をすりて字教と定^ス
許計の字と元得て去處と據^{コドラ}
我身とてふもかて三茅^{マウ}が入^ル
たとれと金浦^{キヌ}那名とおれ
次磨と雅波^{アハ}那名とおれ
浪も元^{アシ}べきまど^モ一け外^ハの
迷へべき傷多^{タメ}略之泥湯ノ上古の
和風^{アフ}もあ紙師も慰^{アハ}之字武宗^{ムジン}
真^{マス}之活巴^{カバ}の比^ヒとも既^モセ^トと

は^ハ連^リ逃^{アツ}至^リ薄^{アツ}り^{アツ}す^{アツ}と^{アツ}ぬ
されど^ト宗用^モを^モと^モ泥^モか^モび^モて
吉^{ヨシ}城^モの^モす^モ清^モ人^モ叢^モと^モて^モね
迷^モふ^モよ^モべ^モう^モじ^モ名^モと^モう^モの
ひ^モく^モの^モ傷^モと^モぞ^モ深^モて^モ望^モ老^モ
負^モ無^モ老^モ衰^モ日^モと^モ育^モう^モし^モう^モり^モ
まの邊^モひ^モや^モ篠^モか^モせ^モう^モ放^モり^モ
又^モ耶^モあ^モり^モる^モ今^モは^モ集^モで^モ下^モ
へ^モ入^モへ^モう^モ拳^モと^モ放^モも^モあ^モ比^モ
ま^モ深^モう^モと^モ絆^モ却^モて^モ吉^モ城^モの^モ友^モう^モじ
友^モも^モ深^モう^モぐ^モれ^モん^モん^モん^モん^モえ^モ
あ^モた^モと^モお^モ見^モる^モと^モ序^モあ^モせ^モて^モ集^モじ^モ
何^モよ^モお^モ見^モる^モと^モ道^モの^モ達^モ師^モ
取^モて^モ年^モ月^モと^モほ^モと^モ及^モ之^モ今^モと^モ

集の通例かあらぬと云ふ事す
あらうゆえども此考へ城余從賢
と達^キ本誓と折^シの科^ハ省^シと古
人得^ル小^ハあらゆることのゆゑに
為^スてものゆゑもりれんと彼^セ乞^ル
時^ハ我非^レ我^セ本^レ彼^セ共^モ
あれん丈^モ是^セ源^ハ既^リ往^カ定^シひ
（き）^ト本^レ上^シ宮太子^ノ靈^ハ法^トより^セ
在^タ人^ハ任^タ他^ノ只^シ心^トと^シ得^シさん
事^ハ恐^一き^シされ^ハアラ化^シ謬^トまで
正理^トあり^リ後^シと^シ也

宗砌は師の歿

あの道^ハ演^ハのま^レ行^ハれ
ふちんの教^ハよじと^シ也

通俗志

○句法

袞^ハ時の季^と切字^とを^ひいて
仕立^ハ一^ノ被^マ又^ハ草^マ院^の財^ハ装^ト
取^ハの^トを^下降^キ知^ハ宿^トう^モ
切^ベ。而^火多^く病^の字^と三^ト
腸^ハ袞^ハの^起向^ト取^ハ心^ト場^ト
離^ハ近^カと^付ふ^ハ。袞^ハ
ゆく月^の季^と以^ハ三^月（ミツ^キ
立^ト季^ハ吉^ト）^ハ衣^ハの^袞ハ
服^モ季^の近^カと^付。立^ト
立^トの^先袞^ハ振^カハ服^ハ立^ト。
名^所立^トの^先立^トハ服^ハ立^ト。
豹^ハ名^服比^シ角^カ効^カの^事と^立。
て^ホ立^ト番^ハ傍^トて^立。

第三ハケトクノ心と才人句を説する
と癡句へ度^{モトス}べし。癡句麦を
の時ハ季^{ハシミ}と除^スく三月ふヨウ季^{ニツキ}秋の時ハ癡句
月の季^{ハシミ}と除^スく三月ふヨウ季^{ニツキ}秋の時ハ癡句
首^{ハシミ}だ。鶴ハ癡句もてゐてゐて之
みるうんぬもす。首^{ハシミ}とべーもあ
何の日傳^ス。てゐみハ鶴のてかと
向^{ハシ}へと詰りに至^ス時ハ抱^スまと入^ベ。
らん高^{ハシ}みハ数のてふとを並^ベ一巻^スざる
時^{ハシ}まですべー。字面又^{ハシ}のとある
扇^{ハシ}りハ傳^スてあー。癡句のサ^{ハシ}
第^{ハシ}ニキモアリとせぬ^{ハシ}いはすて^ハ
不然。賦^{ハシ}の時ハ季^{ハシミ}と才人^{ハシ}を覺^ス
四句めようハ句めとひてある^{ハシ}と^{ハシ}と^{ハシ}
さくとすべーけろふ正花と^{ハシ}

八句目へ月とちがうだ他独化千句
りとみハ第一する事^{ハシ}とも^{ハシ}。ある
間^{ハシ}と月^{ハシ}と時^{ハシ}七句目定度^{ハシ}と
月^{ハシ}の月歩^スる時^{ハシ}陰の月^{ハシ}すべー
表^{ハシ}八句の内^{ハシ}神祇^{ハシ}及^ス高^{ハシ}常
述懷^{ハシ}と高^{ハシ}哀傷^{ハシ}名^{ハシ}人の名^{ハシ}字
履^{ハシ}見^{ハシ}者^{ハシ}の相^{ハシ}疏^{ハシ}黒^{ハシ}或^{ハシ}鷹^{ハシ}お^{ハシ}と^{ハシ}
徑^{ハシ}同^{ハシ}字^{ハシ}か^{ハシ}猿^{ハシ}の文^{ハシ}夏^{ハシ}秋^{ハシ}えある句
又^{ハシ}京^{ハシ}故^{ハシ}東^{ハシ}思^{ハシ}あの字^{ハシ}智^{ハシ}とぞう
一季^{ハシ}三季^{ハシ}のかは^{ハシ}及^スび。二字^{ハシ}み^{ハシ}
一^{ハシ}ありても二句玄^{ハシ}とすべー
わ折^{ハシ}の裏^{ハシ}十四句^{ハシ}こ十三句めと在^{ハシ}の
花^{ハシ}と在^{ハシ}と附^{ハシ}ハ十^{ハシ}る目^{ハシ}小枝^{ハシ}めとせば
う^{ハシ}花^{ハシ}をす^{ハシ}だ。月^{ハシ}ハ瓦^{ハシ}鶴^{ハシ}一^{ハシ}

立^リか^レ月^をゆ^くと^れ又^ゆゆ^くに
二の表^{十四}匁^こニ月^達付^ハ十二^月を
度^す。む十四^匁め^もと^せだ

三の表^{十四}匁^こニ あふ月^一

三の表^{十四}匁^こニ あふ月^一

名^なみの表^{十四}匁^こニ あふ月^一

名^なみの表^八匁^こニけ折^ハの正^{マサ}花^ハと旬^ヒの
花^ハと云^ハ返^{カム}居^リの時^ハ名^なみのむと^は之^{アリ}
又^{アゲル}花^ハあ^ゲる。七^{ナナ}九^{クシ}と度^す
花^ハと^すそ^そ時^ハ六^{ロク}九^{クシ}心^ハて^ス一^{イチ}九^{クシ}
又^{アゲル}花^ハあ^ゲる。七^{ナナ}九^{クシ}と度^す
生^{アガ}す^ス又^セタ^タり^ミ時^ハ必^ズひづ^ベ一^{イチ}九^{クシ}
矣^ハと^す又^セタ^タり^ミ時^ハ必^ズひづ^ベ一^{イチ}九^{クシ}

瓦^{アゲル}白^ハと^す季^ハと^す一^{イチ}九^{クシ}

付一季を除くべし。お詫ハ以てはふ
及ぐに月の付句も又准く。平秋の
付句小季の秋句をみて又准へ平秋の
句と付て牛へ季句と云ふ事は平
秋とハ寔みてハ季を除く。秋句とよ
まく季句も又准^{ジユウズヨニ}。季の季句を薦^ハ
せぬままですくうく。二不詫ハ季句を
如スベ^{タマツ}。行^{キタマツ}後^{アヒテ}の序歌^{セイギ}と牛^{ウシ}と
少^{タマツ}。餘^{タマツ}と少^{タマツ}に三^{タマツ}と^ハ
呼^{タマツ}。統て心をお哉へ度^{タマツ}。
月月の季^{タマツ}と三句へう^{タマツ}。あふ
が^{タマツ}を知る捨^{タマツ}みハセねり^{タマツ}。人^{タマツ}の
心^{タマツ}を作りふ^{タマツ}。お情^{タマツ}と^ハ

老人の幽篇^{ハナブシ}小述懐の羽^{ハナタマ}の序^{ハナタマ}
塵^{ダラ}落^{ハカ}破戒^{ハタク}の^{タマ}。か土の^{タマ}。小院病^{ハタク}
を外^{タマ}。一^{タマ}の不^{タマ}。引^{タマ}舞^{ハタマ}。あ^{タマ}。か^{タマ}と^ハ
用^{タマ}給^{ハタマ}。ベ^{タマ}。又^{タマ}作^{ハタマ}。ま^{タマ}。
漫^{タマ}和^{タマ}癡^{タマ}句^{タマ}。漫^{タマ}句^{タマ}。牛^{タマ}。と^ハ季^{タマツ}を
弦^{タマツ}。入^{タマツ}。ベ^{タマツ}。ま^{タマツ}。歌^{タマツ}を^ハ有^{タマツ}。
本^{タマツ}と云^{タマツ}。歌^{タマツ}と^ハ有^{タマツ}。と云^{タマツ}。歌^{タマツ}。
和^{タマツ}と^ハち^{タマツ}。照^{タマツ}。和^{タマツ}。牙^{タマツ}。唱^{タマツ}。歩^{タマツ}。
平^{タマツ}字^{タマツ}の^ハ韵^{タマツ}を^ハ序^ハ。入^{タマツ}韵^{タマツ}を^ハ宣^{タマツ}。
唱^{タマツ}句^{タマツ}の^ハ韵^{タマツ}。何^{タマツ}の^ハ仄^{タマツ}字^{タマツ}を^ハ居^{タマツ}。
後の射^{タマツ}と^ハわ^{タマツ}の^ハト^{タマツ}ハ^{タマツ}共^{タマツ}入^{タマツ}韵^{タマツ}。
韵^{タマツ}的^{タマツ}平^{タマツ}字^{タマツ}を^ハ除^{タマツ}。但^{タマツ}五^{タマツ}字^{タマツ}を^ハ云^{タマツ}。
の字^{タマツ}を^ハ云^{タマツ}。日^{タマツ}字^{タマツ}別^{タマツ}也^{タマツ}。

すりとも不免し又和みハがまひだ。
唱句ふ対句をはるハ事と対して
いと歌く。対句ふ唱句はする所ハ
心と付て字と歌く。又和伴の対
唱句対句共ニ心と从て付く。蓋
の心とまよハ和も用あ。表八句
漫四句和四句を対句一筋のて
名前の書ふ対句五句。歌と
表の八句目と羣句とハ和光する
。漫五十句和五十句之從一二句の色
不そハがまり。和る漫句若者
を後く。又対句ふむりてハ六句を
する。一度二句の和ハ漫句和と
みて一言す。又一の和もて表ハ
すきに沿けむけむハ漫句和めら。

只一すへ化准之。正花漫ふ二句
和ふ二本毛平ニ折を反づべ。
月立方へうるどへと一方へ立き不善
漫和昔小月のほくをがまうだかの
景わ准之。送り字を例ハ対句の
和ハ西玄之。十二門をもて対字を
取べ。朱引の句ハ対字の門を強
てこがう。又第四句の和ハ表八句不
せん。玄暖句教表の歌わホハ常の
能滑の法ホ内へ。平起リ仄起リ二
四不同避三聯ホ詩の立言ふ等。
四字一平ハ仄を以テ対ス化対ホ
不記又唱句をくりと不捨隔句
連綿字假名虫ある皆准之あら
の所トヨキ本ハ只一筋の表と又

是板ふ出スとウアハあくに高又待
拘字の神ヨリ候句みけ一神ヨリ
文で知。連枝の字大板も句
あく板不僅ふ立句のうち立れバ板の
害を恐モテ不謗く

和板ハ多々和モテ限ハほ。復ハ
薔多と踏てわふ不踏ヘシハ復和ニ
月一タの立委ハ復和ふ反ス

奇仙の法ハ表立句五句目を立の
月とす。表十二句モ十句めとも
の立とモ又月とす。名跡の表十二句
又月とすべ。名跡の表六句
立立と花の立とす。比立立一月
月立。都合三十六句で表立二
月三へ大槻瓦薔の法モ無ベ

四十四の法ハ瓦薔の二三の折を抜て
初折と名跡のわとと詠ひ食
をうりて咸瓦薔の法モ同

竹奥の事。往古ハうき茅うきを
いつの比うりう瓦薔の翠立句。常の
折のかりうだくふと次て又瓦
二石をと分折す。瓦薔二石のわも
落し合スをうり。瓦薔二石のわも
絆真ふされば、又歩ス之保多ま殺多
けやけキ内ハ仕立をうて底よべ。
玄照月花東瓦薔ふ大二月一。
竹奥ううりの時、立句去三句去方
去のわハ立句三句と式ふとが
折面ときらひ七句去のわハ如法小
字去ふるうえ

訛諧ハ心不治て一匁一匁を生

詞小表て四折万韻小及小者也

享保丙申冬至甲子日

員九



安永九庚子年九月再版

訛諧通俗志薄用摺

出來

同 美濃紙摺

出來

京都 菅屋平左衛門

書肆

江戸 須原屋茂兵衛

大坂 柏原屋清右衛門

古雀

